

第二章 海外派遣(経験)者に対する調査(現地実態調査)について

この調査は、現地の実態を把握するため、海外派遣者及び海外派遣経験者に対して、調査票(資料参照)により調査したものである。

中国、フィリピン、タイ、インドネシア、ブラジル、マレーシアの6ヶ国別に2人～4人、合計20人の海外派遣(経験)者に調査票の作成を依頼したところ、17人から回答を得たので、これを取りまとめた。

その回答内容は、現地でなければ遭遇できない留意事項が盛りだくさんあり、当該国及びその地域の人々を理解する上で大変役に立つと期待している。

第一節概論編では中国、フィリピン、タイ、インドネシア、ブラジルの5ヶ国について概略的にまとめ、第二節詳細編ではマレーシアについて少し詳しく記載した。

第一節 概論編

1. 中 国

(1) 派遣先国の一般情報

項 目	内 容 及 び 留 意 点
☆国の概要	
面 積	960万km ² 、日本の約26倍
人 口	11億人以上(1992年現在)日本の人口の約10倍
気 候	四季(ある・なし) 北京、天津、大連は日本の東北地方と同じです。北西の砂漠、あるいは南方の香港付近は台湾同様冬が無いところもあります。
☆国民性	
言 語	公用語……北京語 他の使用語……上海、広東語等5大方言の1つが北京語です。 都市部の若年層は北京語が通じますが、地方では通じない場合もあります。
宗 教	---
☆国 情	
治 安	日本と比べて 一般に良いようです。 南部の開発の進んだ地域、特に広東省広州は極端に治安が悪いようです。 天津市内でもバスの中はスリに注意が必要です。
日本との関係 (対日感情等)	友好的です。 根底には戦時中の抗日意識がありますが、表面上は出ないようです。
☆歴 史	
建 国	1949年
☆経 済	
通 貨	単位は元。レートは約17.3円(1993年10月現在)

項 目	内 容 及 び 留 意 点
G N P	1人当たり370ドル、日本円で40,700円（110円換算） 日本の約0.13倍、日本は26,920ドル
日本のODA	(ある・なし) 有償資金協力 1,225.24億円 無償資金協力 66.06億円 技術協力 70.49億円 合計 1,361.79億円
☆産 業 電 力	電源のボルト 220V 周波数 50ヘルツ
水道供給状況	(良い・普通・不足)
資 源	主な資源……………石炭、石油、天然ガス、アンチモン、水銀、すず等です。
☆住宅事情	(良い・普通・不足) 現在急ピッチで建造中です。従業員は社宅が貸与され永住できます。 一般的に狭いのですが、役職が上がれば広いアパートに転居できます。 外国人用住居は限定されています。経済発展に伴って増加する外国人に見合う住宅の立ち遅れが目立ちます。
☆保健衛生 保健制度	(ある・なし) 都市部の給与所得者が対象です。外国人にはありません。
薬局・病院・ 診療所	衛生状態は悪いが、近代的な病院が増えつつあります。 肝炎の予防注射は日本で済ませておく必要があります。
医 師	西洋医 106万人 西洋医助手 33万人 漢方医 106万人 漢方医は英語ができません。 医療施設の不足、低い技術水準、設備・機材の老朽化が進んでいます。
風土病・ 伝染病等	(ある・なし) 水に含まれるフッ素による歯の変色、脆弱の可能性があります。骨の脆弱も見られます。
生 水	(飲める・飲めない) 沸騰させることが必要です。
☆交通・通信 道 路	整備状況……………右側通行です。(左ハンドルです) 右ハンドルの車は持ち込みできません。 又、毎年の免税車の数量を省毎に限定しています。 混雑度合……………道路が狭く、橋がネックとなり通勤時は非常に混雑します。運転マナーが悪い です。 交通信号がほとんど無く、あっても守る習慣が無いようです。ひどい渋滞が随 所に見られ、警官が交通整理をしています。 留意点：外国人はおおむねタクシーを利用しています。
鉄 道	整備状況……………一般席に比べて一等席はかなり良く、特急（広州－香港）は特に問題はありません。 時間は正確か等…時間は大幅に遅れることがあります。特急は全車両指定です。
空 港	整備状況……………ほどほどです。 混雑度合……………一般的には混雑は無いようです。 時間は正確か等…時間は正確の部類にはいるでしょう。 留意点：4～5月の桂林行きは天候不順のため危険です。
放 送	時 間 帯……………―― 局 数……………テレビは3～4局あります。ホテル、近代的なアパートでは衛星放送が受信可 能です。

項目	内容及び留意点
郵便	所要日数等……航空便は1週間、船便は1カ月程度です。 留意点：時々、税関が開封していることがあります。 宛先人不在の場合は放置されることがあります。
電話	整備状況等……ホテル等では問題はありませんが、一般ではあまり普及していません。 公衆電話は極端に少ないようです。従って携帯ベル、携帯電話が目立ちます。 留意点：外国人に関しては盗聴の可能性が大きいようです。

情報入手方法 * 海外事情〈海外での業務体験を通じて〉 海外職業訓練協会発行
* 中華人民共和国の経済社会の現状 開発途上国別経済協力シリーズ アジア編 No.15 第3版
財団法人 国際協力推進協会
* 中国月報 財団法人 震山会
* 地球の歩き方 中国 ダイアモンド社
* 中国自由自在 日本交通公社出版事業部
* 現地体験

(2) 派遣先国の人材育成情報

項目	内容及び留意点
☆教育 教育制度	義務教育……6・3・3・4制です。義務教育は9年です。 就学率……小学校の就学率 97.8% 進学率等……中学進学率 74.6% 高校進学率 40.6% 大学卒 1.42% 文盲、半文盲 1億8,003万人 15歳以上非識字率 26.7% (男 15.9% 女 38.2%)
日本語教育	学校教育として実施 (Yes・No) 専門に行っている施設の有無 (Yes・No) 外国語学院、職業学校、又、企業によっては社内で日本語教育があります。
英語教育	学校教育として実施 (Yes・No) 専門に行っている施設の有無 (Yes・No) 外国語学院、職業学校、人によっては退社後通学している者もいます。
☆職業訓練 訓練制度	政府の各部(日本の省)が所有する技工学校は合計で4,392校3年制です。 この内労働部には、500校近くあります。基準が完備されていないコースが多数あり、又教師の養成は労働部直轄の天津職業技術学院が国として唯一の機関です。 第8次5カ年計画で、2校の開設を計画しています。 留意点：上記学院による養成数が絶対的に不足しており、あてにしていない技工学校が多く、独自に大卒とか企業の労働者からリクルートしています。
技能検定制度	1, 2, 3級(初級) 4, 5, 6級(中級) 7, 8級(上級)
訓練職種	旋盤、フライス盤、仕上げ、研磨、溶接、電気、ラジオ、TV修理等
訓練施設	数：天津職業技術師範学院 1 技工学校 4,392 雇用訓練センター 約2,000 設備：全体に旧式で日本より20~30年の遅れと思われる。
民間訓練施設	数：外資系企業を中心とした最近の訓練施設(特にトヨタ金杯技能工養成センター)は日本に近いレベルと思われる。 設備：---
指導員	数：学科と実技の担当が分離されている。前者は豊富にいるが、後者は6万人必要だが2万5,000人不足している。要は区別しないで学科担当の教師を有効活用すべきである。特に、最近のコンピューターを主体とした職種は学科と実技の境界がはっきりしていない。 質：---

③ 派遣先国の労働事情情報

項目	内容及び留意点
☆労働 労働条件	勤務時間（48時間／週） 有給休暇（20日／年）
賃 金	支払い（日給・週給・月給）で約300元（大卒）、日本円で約6,000円 大卒初任給76元、日本円で約1,520円 高卒初任給50元、日本円で約1,000円（1992年現在）
労働人口	約5億4,000万人
失業率	約2.3%（1992年）
有効求人倍率	不明 留意点：改革の進んだ都市部において、合併企業を中心に外国語の出来る人材の需要が大きいが供給が不足しています。
定年制度	（ある・なし） 男性60歳、女性55歳が原則です。
年金制度	（ある・なし） 企業より支給されます。（約75%）
労働力事情	（良い・普通・不足） 改革が急激でアンバランスが目だつ。
雇用保険制度	（ある・なし）
☆労働災害	保障の（有・無） 比較はできません。
☆公害規制	基準の（有・無） 排煙、排水等

④ 派遣国で技術供与（移転）を実施した上での、現地訓練生に関する具体的体験情報

項目	内容及び留意点
☆訓練生の授業 技能の程度	レベル……………大ざっぱな面がある。 取得度合……………ほどほど。教育訓練の動機付けが弱いため取得意欲は小さい。
知識の程度	レベル……………知識偏重となっている。 取得度合……………ほどほど
日本語能力 程度	（ ）かたこと程度 ※なし （ ）日常会話程度 （ ）専門分野もできる
英語能力程度	（ ）かたこと程度 ※しゃべれない。 （ ）日常会話程度 ※義務教育では英語を取り入れている。 （ ）専門分野もできる
☆授業(作業)態度等 授業態度の 自覚	容易に （○）自覚した （ ）自覚しなかった
施設内での 規則・規律 の厳守	容易に （○）厳守した （ ）しなかった

項 目	内 容 及 び 留 意 点
安全衛生 (整理整頓等) の励行	容易に (○) 励行した () しなかった
☆教材・機器に 関する事項 学科教材	持参教材の活用 ※持参教材はない。 () 活用した () しなかった
実技教材	持参教材の活用 ※持参教材はない。 () 活用した () しなかった
機 器	持参機器・現地機器 () 十分 (○) 十分でない コピー機械(キャノンの合弁会社製)の品質が悪いようです。 サービス態勢も不備です。
参考資料	持参資料・現地資料 () 十分 (○) 十分でない
省力機器・ 工具	普及している省力機器・工具 省力機器はほとんどありません。 工具、高速度鋼、超硬合金鋼があります。 外国との技術提携、合弁企業ではベルトコンベア、NCがあります。
☆施設環境に 関する事項 教室・実習場	十分整備 () されている (○) されていない 訓練生が多く、全体的に狭いようです。照度が不足しており、窓の防塵対策も不十分です。
体育施設	設置 (○) されている () されていない
食 堂 更衣室 談 話 室	十分整備 (○) されている () されていない
ト イ レ	十分整備 (○) されている () されていない
☆授業実施中の トラブル	
安全衛生	○トラブルの「予知」 (Yes・No) ○トラブルの発生 (Yes・No)
安全衛生以外	○トラブルの「予知」 (Yes・No) ○トラブルの発生 (Yes・No)

(5) 派遣国で生活上知っておかなければならない情報（事柄）

項 目	内 容 及 び 留 意 点
<p>☆生活(日常生活) 上必要な情報 (事柄) 現地の生活 環境等</p>	<p>現地の住居状況 不足気味です。従って家賃はかなり高いようです。</p> <p>現地の食事 生物（なまもの）に注意することが必要です。安い屋台形式での食事にも注意が必要です。</p> <p>現地での衣類購入の難易 衣類の購入は容易で安いようです。</p> <p>現地の蚊等の発生状況 普通です。</p> <p>自然災害の発生状況 普通です。</p> <p>風俗・生活習慣の違い 交通は右側通行のため、交差点は左回りが原則です。つまり、歩行者も左側の横断歩道を通行すると、注意されることがあります。交差点では直進より左折優先のケースが多いようです。その他暦は旧暦です。又、家族中心主義です。</p> <p>現地の娯楽・施設等 カラオケ、ダンス、卓球、庭球、水泳、ボーリング、トランプ、釣り、将棋、映画</p> <p>現地の祝祭日 1月1日 元旦 1月下旬～2月上旬（旧暦）春節 5月1日 メーデー 10月1日～2日 国慶節 この他に各種の祭があり、休んでいます。</p> <p>現地の人々の平均的な家族 構 成…………… 1人っ子政策が（1979年より） 留意点：農村部では厳守されていません。</p> <p>毎月の平均生活費（平均的な家族構成で） 月に約100元、日本円にして約2,000円 上の数字は、あくまでも昨年の市の平均です。都市部のサラリーマン月収は400～1,000円で、80%はいる農民は月あたり50～60元です。</p> <p>現地の人々の健康状態（風土病・伝染病等） 水に含まれる成分（フッ素）により歯が灰色となり脆くなる。</p> <p>現地の人々の余暇の過ごし方 映画、ビデオ、カラオケ、トランプ、将棋、麻雀、友人家族と共に食事と団らん。 世代別では 子供→テレビゲーム 若者→ビリヤード、ディスコ、公園散歩 婦人→ディスコ風美容体操 紳士→麻雀、小鳥、太極拳、ゲートボール、釣り</p> <p>現地の人々の勤労態度 ノルマ制が伝統的態度。 これは国有企業に顕著でノルマを果たせば外出、買い物を自由にやっている。 出勤しないことも多く、一般的には良い人もいれば、悪い人もいます。</p>
<p>日常生活</p>	<p>現地での挨拶の仕方 問題はありません。</p> <p>現地での食事の仕方 中央に盛りつけた大皿から、各自、自家箸で取ってたべます。</p>

項 目	内 容 及 び 留 意 点
	<p>現地での料理の作り方 油を多用する。</p> <p>現地でのゴミの出し方 問題はありません。</p> <p>現地での買い物の仕方 道路沿いの自由市場（野菜、卵等の台所生活用品が主対象）では5割増しにふっかける事が多いです。</p> <p>現地での生活必需品の供給度合い 浄水器を持参する方が良いでしょう。</p> <p>現地での電車・バスの乗り方 バスはスリに注意することです。</p> <p>現地での風呂の使い方 外人の住居には付属施設として存在するので問題はありません。</p> <p>現地でのトイレの使い方 不清潔なので、特に女性は遠出の場合、前日より水分を取り過ぎないようにした方が良いでしょう。</p> <p>現地での国際電話のかけ方 中国から海外への電話はかなり高い（昔の日本のKDDと同様です） 市内は無料です。</p> <p>現地での郵便物の出し方 内容物の検査の後、包装します。</p> <p>現地での病院へのかかり方 市内に各種の病院があり、日本語のできる人が援助してくれることもあります。 大事をとって北京の「日中友好病院」がベストです。</p> <p>現地の人との付き合い方 政治の安定を乱す言動は慎むべきです。</p>
その 他	<p>派遣国の伝統芸能 京劇、平劇、河北梆子等</p> <p>派遣国のスポーツ 気功</p> <p>派遣国の国技 なし</p> <p>その地域で立ち寄らない方が良い場所（具体的に） 特に感じない。</p>
☆生活中的（トラブル・危険）の予感	○トラブル・危険の「予感」 (Yes・ <u>No</u>)
☆生活中的（トラブル・危険）の発生	○トラブル・危険の「発生」 (Yes・ <u>No</u>)

(6) その他

項目	内容及び留意点
☆派遣専門家への参考事例	◎おもしろい話 ---- ◎困った話 ---- ◎裏話 ----
☆派遣国のタブー	・面子を大事にするので人前では叱らないこと。

2. フィリピン

(1) 派遣先国の一般情報

項目	内容及び留意点
☆国の概要 面積	30万km ² 、日本の約0.8倍 ルソン、ミンドロ、サマール、レイテ、セブなど11の大きな島が総面積の96%を占めます。残りは、約7,100の島々からなっています。
人口	6,148万人（1990年現在）日本の人口の約0.5倍 年間人口増加率（1988年現在）は2.6%で日本の約4倍のスピードです。
気候	四季（ある・なし） 雨期（5～11月）と乾期（12～4月）があります。 ルソン島は台風の通り道になっています。
☆国民性 言語	公用語……英語、フィリピーノ語 フィリピーノ語は、ルソン島中央部の言語、タガログ語を母体とした語で、他の部族は利用していません。
宗教	ローマカトリック 85% アグリパヤン 6% イスラム 4% プロテスタント 4%
☆国情 治安	日本と比べて 日本と同様で、時間場所によって危険な場所もあります。 銃の所持がかなり自由なため怖い所もあります。
日本との関係 (対日感情等)	日本との交流は盛んで、対日感情が悪いということはありませんが、戦争による被害者意識は、特に高齢者に強く、また傲慢な態度を持つ日本人をたいへん嫌います。
☆歴史 建国	1565年 1565年から1898年までスペインの植民地として、また1898年からフィリピン共和国として独立するまではアメリカの植民地として過ごしました。
☆経済 通貨	単位はペソ。レートは約6円（1990年現在）
G N P	1人当たり700ペソ 日本の約3/100倍
日本のODA	(ある・なし) 40,400万\$（1989年度）

項 目	内 容 及 び 留 意 点
☆産 業 電 力	電源のボルト 220V 220ボルトの中間端子を利用して110ボルトを使用している所も一部あります。 周波数 60ヘルツ
水道供給状況	供給状況は不足しています。 経済的に優位な家庭が水道にポンプをつけ使用するため、水圧が低くなり、ポンプのない家庭ではあてにならず、一般では、主に井戸を利用します。
資 源	主な資源……………銅、コバルト、クローム
☆住宅事情	(<u>良い</u> ・普通・不足) 一戸建て賃貸、コンドミニアム、アパート等充分です。
☆保健衛生 保健制度	(<u>ある</u> ・なし) 一般国民を対象とした社会保険制度 (SSS) の中に疾病給付、出産給付などがあります。
薬局・病院・ 診療所	薬局は大きな町、病院は都市でないといけません。注射針などを繰り返し使用するところが多く、都会の大病院を利用したほうがよく、薬は医師の処方箋を持って薬局で購入するシステムで、入院には必ず付き添いが必要です。
医 師	大病院に努める医師はアメリカ留学、研修経験者が多くレベルが高いと思います。 医師は知人等からの紹介で選んだ方がよいと思います。
風土病・ 伝染病等	(<u>ある</u> ・なし) 急性肝炎、腸チフス、マラリヤ、デング熱 生物はさけシャワーなどして常に肌を清潔に保つことです。さらに、夜更かしなど、体力を消耗するようなことは避けるべきです。
生 水	(<u>飲める</u> ・ <u>飲めない</u>) 水道水も一度煮沸したほうが安全です。
☆交通・通信 道 路	整備状況……………都市付近では幹線道路は整備されていますが、舗装道路は普及していません。 混雑度合……………マニラ市内は大変な混雑で、交通渋滞も多いです。車の鼻先が先に出た方が交通優先権がある、というルールがまかり通っています。右側通行です。
鉄 道	整備状況……………ルソン島北部のサンフェルナンド、マニラ間約270kmを結ぶ線と、ルソン島南部のレガスピ、マニラ間約500kmを結ぶPNR (Philippines National Railway) があります。また、北のモニュメント駅から南のバクラーラン駅まで約15kmを結ぶマニラ交通機関のエースであるLRT (Light Rail Transit) があります。 混雑度合……………LRTは3~5分間隔で運行されていますが、PNRは1日に数本の運行です。 時間は正確か等…実用的ではありません。
空 港	整備状況……………国内空港83と社有空港120があります。かなり密なネットワーク形成されていますが料金も日本と比べ安いと思います。 混雑度合……………クリスマス時は混雑します。 時間は正確か等…ほぼ正確です。
放 送	時 間 帯……………5:00~23:00 局 数……………ラジオは、AM200局、FM60局、またTVは5局です。 PAL方式なので日本のテレビは使用できません。 ケーブルテレビも入っているのでNHKはみられます。
郵 便	所要日数等……………3日~2週間程度 郵便物の紛失が多いため私書箱の確保が重要です。
電 話	整備状況等……………1986年に約86万台が整備されていますので65人に1台の普及率です。 電話での問い合わせは話中が多く難しい状況です。

(2) 派遣先国の人材育成情報

項目	内容及び留意点
☆教育 教育制度	義務教育……………6年間 就学率……………67% (1987年) 午前と午後の2部制です。 進学率等……………中等教育(4年間)への進学率は義務教育修了者の64%で全体の43%です。 高等教育(2年または、4年間)への進学率は中等教育修了者の27%です。
日本語教育	学校教育として実施 (Yes・No) 大学の一部で選択の単位として実施しているようです。 専門に行っている施設の有無 (Yes・No)
英語教育	学校教育として実施 (Yes・No) 公用語の一つである英語が初等教育後期以後教育用語として多用されています。特に私立学校では小学校から英語が教育に、高等教育ではすべて英語で、フィリピーノ語は選考の単位として習得しているにすぎません。 専門に行っている施設の有無 (Yes・No)
☆職業訓練 訓練制度	職業訓練を実施している主要機関は教育文化スポーツ省(DEC S)と労働雇用の付属機関である国家人材青少年協議会(NMY C)であります。 工業系の実技訓練はNMY Cの10の地域訓練センターが主体で、DEC Sの訓練は主に商業、農業、漁業となっています。
技能検定制度	1974年にフィリピン労働法により、NMY Cが国家職業基準の策定・運営を行う権限が与えられました。この基準は221の職種におよび、職業検定は49職種です。約26万人が受験し12万人が合格しています。基準は、1、2、3級のレベルに分かれています。
訓練職種	機械、溶接、木工、洋裁、自動車、電工、建設機械、テレビラジオ修理、家具製造、農機メカニク・オートバイ修理等です。
訓練施設	数 : 全国に地域訓練センター10カ所とコミュニティー訓練ユニットが75ヶ所があります。 設備 : 地域訓練センターは比較的整っています。
民間訓練施設	数 : 約600カ所程ありますが訓練分野は主に商業、農業、漁業に限られています。 設備 : マニラ市内は整備されています。
指導員	数 : 10の訓練センターで約400名でほとんどフィリピン工科大学の卒業生です。 質 : 優秀な指導員は民間へ出るため悪いと思います。 実技経験はほとんど無いと思います。

(3) 派遣先国の労働事情情報

項目	内容及び留意点
☆労働 労働条件	勤務時間(48時間/週) 始業時刻が早く、工場などは午前7時か7時30分が多く、一般に事務部門は30分ぐらい遅くなっています。 有給休暇(15日/年)
賃金	支払い(日給・週給・月給)で約700ペソ、日本円で約5,000円 これは政府が1992年に発表した最低賃金です。実際はもっと低いと思われます。 法的には2週間に1回以上と賃金支払い回数を規定しています。
労働人口	約2,500万人
失業率	約10%

項目	内容及び留意点
有効求人倍率	不明
定年制度	(ある・なし) 60歳となっています。使用者は当該退職者に対し施行規則で退職手当を支払うことになっています。ただ、戸籍がないため年齢の判断ができません。
年金制度	(ある・なし) 公務員用のG S I Sと一般国民用としてS S Sの中に年金制度があり、退職制度は加入者が60歳となり所得がない場合か、65歳に達した場合に支給が開始されます。
労働力事情	(良い・普通・不足) 完全失業者が240万人と推定されます。特に首都圏では不完全失業者は労働力人口50%程度に達していると言われています。全国的には不完全失業率は27%と発表されています。
雇用保険制度	(ある・なし)
☆労働災害	保障の(有・無) 社会保険制度の中に労働災害保障保険があり雇用者側が保険金全額を負担することになっています。
☆公害規制	基準の(有・無)

(4) 派遣国で技術供与(移転)を実施した上での、現地訓練生に関する具体的体験情報

項目	内容及び留意点
☆訓練生の授業能力(レベル) 技能の程度	レベル……………訓練生はゼロからのスタートですが実技を中心としているため上手です。 取得度合……………良いと思います。一般的には手作業が器用といえます。
知識の程度	レベル……………理数系が弱いため計算式の応用があまり得意ではありません。 取得度合……………どちらかと言えば専門用語の習得は早いと思いますし、記憶力はたいへん良いと思います。
日本語能力程度	() かたこと程度 ※日本語に接する機会がありません。 () 日常会話程度 () 専門分野もできる
英語能力程度	() かたこと程度 () 日常会話程度 (○) 専門分野もできる
☆授業(作業)態度等 授業態度の 自覚	容易に (○) 自覚した () 自覚しなかった 生活のためなので一生懸命習得しようとしています。ただし、研修中も生活費を稼ぐ必要がありますので、休み、遅刻などが不可避な状態です。
施設内での 規則・規律 の厳守	容易に (○) 厳守した () しなかった
安全衛生 (整理整頓等) の励行	容易に (○) 励行した () しなかった 実習終了後の掃除や周辺の除草作業もよく協力します。

項 目	内 容 及 び 留 意 点
☆教材・機器に関する事項 学科教材	持参教材の活用 (○) 活用した () しなかった 現場の訓練機器や工具などに内容をあわせたり、理数系の基礎知識を補足したり、持参した教科書等の翻訳をしました。
実技教材	持参教材の活用 (○) 活用した () しなかった 分解、組立用実技教材は実習に伴う破損を極力さけるために作業用回転台の作成やボルト穴の改造などの対策をしました。
機 器	持参機器・現地機器 () 十分 (○) 十分でない 十分でない場合の工夫方法 補充しました。 種類としてはある程度十分に整備しましたが、一斉の実習時のための機器や工具の数量が足りませんでした。
参考資料	持参資料・現地資料 () 十分 (○) 十分でない 十分でない場合の工夫方法 資料を取り寄せ閲覧させた。 翻訳が必要でない米国やオーストラリアで出版されている教材等を極力取り寄せ閲覧させるようにしました。
省力機器・工具	普及している省力機器・工具 ---
☆施設環境に関する事項 教室・実習場	十分整備 (○) されている () されていない
体育施設	設置 () されている (○) されていない
食 堂 更衣室 談 話 室	十分整備 (○) されている () されていない
ト イ レ	十分整備 (○) されている () されていない トイレの掃除が十分ではありません。
☆授業実施中の トラブル 安全衛生	授業の組み方 安全事項は実習用テキストに盛り込んでいたし、実習指導時にも安全の指導に十分配慮しました。 ○トラブルの「予知」 (Yes・No)

項 目	内 容 及 び 留 意 点
	<p>Yesの場合 「予知」の内容 エンジンなど高速で回転する物を扱うときや重量物の持ち上げ、その下に入り作業をするときなどです。</p> <p>感じた状況 訓練生は訓練に集中していて、危険を予知する経験も、その対策方法も知らないため。</p> <p>とった対応 エンジンを始動するときは高速回転物より遠ざけ、重い物を持ち上げ、その下に入るときは、台座をかけさせました。</p> <p>その結果 幸いにも無事故でした。</p> <p>○トラブルの発生 (Yes・No)</p>
安全衛生以外	<p>○トラブルの「予知」 (Yes・No)</p> <p>○トラブルの発生 (Yes・No)</p> <p>Yesの場合 「トラブル」の内容 訓練教材が足りない状況でも指導できる方法を質問されました。</p> <p>発生状況 現地の大学の講師や指導員を対象とした向上訓練を担当した時</p> <p>解決策 トラックに訓練教材を積んで巡回指導を企画した。 また、教えた指導員と協同で実施しました。</p> <p>その結果 よくなった。</p>

⑤ 派遣国で生活上知っておかなければならない情報（事柄）

項 目	内 容 及 び 留 意 点
<p>☆生活(日常生活) 上必要な情報 (事柄) 現地の生活 環境等</p>	<p>現地の住居状況 通常外国人が居住する一戸建て住宅はビレッジと呼ばれ高い塀で囲まれ、上下水道等を管理する住宅区域内にあります。また、コンドミニナム（高級マンション）にも外国人が多く住んでいます。コンドミニナムの方が治安の面では安全といえます。</p> <p>現地の食事 新鮮な魚介類も手にはいるし果物も豊富です。日本食料品店もマニラには数軒あり、食にはあまり心配する必要はありません。ただし、生水やさしみ類には気をつけた方がよいと思います。</p> <p>現地での衣類購入の難易 Tシャツ等の混紡製品は豊富にあります。ただし、下着類または喪服などは持参した方がよいと思います。 ズボン程度なら布地を持参すれば割安にオーダメイドができます。</p> <p>現地の蚊等の発生状況 一年を通じて発生しています。窓の網戸などは必ず取り付けなければなりません。また、肌は常に清潔に保つことです。</p>

項 目	内 容 及 び 留 意 点
	<p>自然災害の発生状況 台風の通り道になっていますので洪水の発生には注意が必要です。</p>
	<p>風俗・生活習慣の違い フィリピーノ、ホスピタリティという言葉が示すように、フィリピン人は概して未知の人にも極めて親切で、恩や義理を大切にします。 イースターとクリスマスは盛大に行います。日常の生活では、家族、血縁のつながりを大切にします。</p>
	<p>現地の娯楽・施設等 映画館はメトロマニラだけで70館ほどあり、料金は10ペソと非常に安く観られます。音楽、美術、工芸そして演劇が盛んで、外国からの催し物が多く観られます。スポーツ等の娯楽施設もあります。</p>
	<p>現地の祝祭日 20日間程あります。 1月1日 新年のミサ 6月12日 独立記念日 3月～4月 聖木曜日 11月1日 聖徒の日 4月9日 英雄行為の日 11月30日 ボニファンオデー 5月1日 労働者の日 12月25日 クリスマス 等です。</p>
	<p>現地の人々の平均的な家族 構 成…………… 5人～10人 一夫一婦の婚姻形態が一般的です。</p>
	<p>毎月の平均生活費（平均的な家族構成で） 月に約3,000ペソ、日本円にして月に約15,000円</p>
	<p>現地の人々の健康状態（風土病・伝染病等） 経口伝染病が多発しています。特にエルツール・コレラは常在しており、その他、腸チフス、アメーバ赤痢、伝染性肝炎、小児ポリオです。一部地域ではマラリアの発生も多く、脂肪分を多く食べるせいか40台からの心筋梗塞による死亡がみうけられます。</p>
	<p>現地の人々の余暇の過ごし方 日曜は教会に行く人も多く、子供はバスケットや水溜まりでの水泳で遊びます。</p>
	<p>現地の人々の勤労態度 基本的には勤勉ですが、職場環境が日本ほど整っていないため勤労意欲は上がっていないように思われます。</p>
日常生活	<p>現地での挨拶の仕方 一日何度でも挨拶（軽くあごをあげ、眉を少し上げる仕草）をする習慣があります。 初対面の挨拶でも笑顔を忘れません。</p> <p>現地での食事の仕方 通常はスプーン、フォークですが素手でも食事をします。 ゆっくりと会話を楽しみながら食事をします。</p> <p>現地での料理の作り方 特にありません。</p> <p>現地でのゴミの出し方 毎晩収集にきます。</p> <p>現地での買い物の仕方 なるべく値切って買うことです。</p> <p>現地での生活必需品の供給度合い 特にありません。</p> <p>現地での電車・バスの乗り方 小型の乗合バス（ジプニー）はルートは決まっていますが、駐車場所が決まっていないので、乗りたいときは手を上げて止め、降りるときも同様のことをします。</p>

項 目	内 容 及 び 留 意 点
	<p>現地での風呂の使い方 一般家庭ではバスタブはなくシャワーが中心で、外での水あびが風呂になります。</p> <p>現地でのトイレの使い方 一般的にはトイレは大変汚いので、事前に用を済ませてから外出します。水の流し方は桶で水を汲んで流します。ホテル等は例外で日本と同じです。</p> <p>現地での国際電話のかけ方 一般的には108をダイヤルして国際電話を申し込みますが、レートの高い指名電話になりやすいので、特別な電話を除いてはステーションコールの指定を忘れないようにすることです。</p> <p>現地での郵便物の出し方 郵便ポストがあまり無いので郵便局へ行き投函します。 東京、マニラ間は1週間必要ですし、小包では3週間を見込んでおいた方が良いでしょう。</p> <p>現地での病院へのかかり方 日本の病院体制と異なり、自分で医者を選び診療室へ行かなければなりません。さらに、予約をする必要があります。</p> <p>現地の人との付き合い方 パーティ等に招待されたら早めにお返しをすることです。 仕事中でも世間話や相談に耳を傾け、挨拶は顔見知り程度でもこまめにすることです。 名前は早く覚えることです。</p>
そ の 他	<p>派遣国の伝統芸能 演劇、国承文学、籐、竹細工等です。</p> <p>派遣国のスポーツ バスケット、水泳等です。</p> <p>派遣国の国技 バスケット、シーパ</p> <p>その地域で立ち寄らない方がよい場所（具体的に） 「トンド」と呼ばれているスラム地区です。</p>
☆生活中的（トラブル・危険）の予感	○トラブル・危険の「予感」 (Yes・No)
☆生活中的（トラブル・危険）の発生	○トラブル・危険の「発生」 (Yes・No)

(6) その他

項 目	内 容 及 び 留 意 点
☆派遣専門家への参考事例	<p>◎おもしろい話 ---</p> <p>◎困った話 ---</p> <p>◎裏話 ---</p>
☆派遣国のタブー	<ul style="list-style-type: none"> ・注意をするときは人前ではしないことです。 ・気軽に「すみません=Sorry」と言わないことです。

3. タイ

(1) 派遣先国の一般情報

項目	内容及び留意点
☆国の概要 面積	513,115km ² 、日本の約1.38倍
人口	56,961,030人（1991年現在）、日本の人口の約0.48倍
気候	四季（ある・なし） バンコック（なし） 雨期6～10月、乾期11～5月 ウボンチャタニ（ある） 暑期3～5月、雨期6～10月、寒気11～2月
☆国民性 言語	公用語……タイ語 他の使用語……英語、マレー語、マンダリン語
宗教	仏教 93% イスラム教 5% キリスト教他 2%
☆国情 治安	銃による事件が多い。軍人、警察以外は銃の携帯は許されていません。 夜間の外出は比較的安全です。
日本との関係 (対日感情等)	一般的に友好的です。 日本企業の進出による経済発展の恩恵を受けていると感じているものの企業内の労働条件をめぐるトラブルも発生しています。
☆歴史 建国	スコタイ王朝に始まり現在はキャクリ王朝です。 1238年
☆経済 通貨	単位はバーツ（Bath）、レートは4.3円（1993年現在）
G N P	1人当たり1,600ドル（1991年現在）
日本のODA	（ある・なし） 418,000万ドル（1990年） シェア 6.16
☆産業 電力	電源のボルト 210～220V 周波数 50Hz
水道供給状況	供給状況は普通です。水道水は飲みません。 あまり断水することはないが、水圧の低いところが多い。
資源	主な資源……農産物、海産物、宝石等
☆住宅事情	（良い・普通・不足） いまなお建築ラッシュが続いており、希望に応じた選択が可能です。すべてのアパートにガードマンが配置され、安全確保がなされています。
☆保健衛生 保健制度	（ある・なし） 一般国民のほとんどが加入していません。
薬局・病院・ 診療所	高級病院もあり設備等は日本の病院に比べて見劣りしません。 一方町医師は数多くあり低価です。
医師	高級病院の医師は日本、アメリカへの留学医師が数多く配置されており、問題はありません。
風土病・ 伝染病等	（ある・なし） マラリア、デング熱等蚊による発生が時々あります。

項目	内容及び留意点
生水	(飲める・飲めない) 水道は煮沸すると飲めます。飲料水をボトルで販売しています。
☆交通・通信 道路	整備状況……………1993年高速道路が開通しましたが、道路の占有面積が極端に少なく、横断道路が少ない。 混雑度合……………渋滞が激しいマナー等非常に悪く事故が多い。歩行者優先の考えが乏しい。
鉄道	整備状況……………バンコクより全国に放射状に数本整備されています。 混雑度合……………下等級は混雑しています。 時間は正確か等…正確です。
空港	整備状況……………ドンムアムが航空が手狭になり新空港建設予定、状況は良い。 混雑度合……………便数も多く、特に問題はありません。 時間は正確か等…正確です。
放送	時間帯……………早期より深夜まで有料UHF、衛生放送、ケーブルもあります。 局数……………5局(VHF)あります。
郵便	所用日数等……………日本から7～10日、首都より地方へ4～5日 小包、荷物は検査し物によっては課税されます。
電話	整備状況等……………各家庭、職場には設置されています。公衆電話はほとんどありません。 携帯電話が普及しつつあります。

(2) 派遣先国の人材育成情報

項目	内容及び留意点
☆教育 教育制度	義務教育……………6年(7～12才) 就学率……………95.8% 進学率等……………中学(3年) 34.5% 高校(3年) 24.7% 大学 7.7%
日本語教育	学校教育として実施 (Yes・No) 専門に行っている施設の有無 (Yes・No) 日本への留学、日本企業への就職、観光ガイドなどのための専門学校があります。 また大学においては選択科目として日本語講座もあります。
英語教育	学校教育として実施 (Yes・No) 専門に行っている施設の有無 (Yes・No) 数多くの専門学校があり、子供コース、主婦コース、ビジネスコースがあります。
☆職業訓練 訓練制度	内務省職業訓練局が実施しており、養成訓練(16～25才)、向上訓練、指導員訓練特別訓練(サービス系)、監督者訓練など中央職業訓練センター(NISD)管轄下で7つの地方職業訓練センターが設置されています。
技能検定制度	機械、金属加工、電気関係を中心に1～3級、22種類が設定されている。又海外への労働者向けとして特別技能検定もあり、技能競技会が2年に1度開催されています。
訓練職種	機械、溶接・板金、自動車、電気・電子、建築・製図、大工・レンガ、農業機械、塗装、冷凍機器、配管、窯業・陶磁器
訓練施設	数 : 8施設(いずれも海外援助施設 ILO 5、日本 2、ドイツ 1) 設備 : 日本の養成訓練基準とほぼ同程度
民間訓練施設	数 : なし 設備 : —

項目	内容及び留意点
指導員	数：約500人（8施設合計） 質：向上心があり良好、大卒の指導員はほとんど座学担当

(3) 派遣先国の労働事情情報

項目	内容及び留意点
☆労働 労働条件	勤務時間（40～48時間／週） 官公庁・大企業は週5日勤務 有給休暇（6日／年）
賃金	支払い（日給・週給・月給）で約3,800バーツ、日本円で約15,000円 大卒初任給5,560バーツ、日本円で約22,000円 高卒初任給3,000バーツ、日本円で約12,000円（1990年現在）
労働人口	約3,224万人（1991年）
失業率	約4.5%（1991年）
有効求人倍率	約（？）倍
定年制度	（ある・なし） 60才
年金制度	（ある・なし） 60才 一括受取と分割が選択できます。
労働力事情	（良い・普通・不足） 首都圏で不足、地方で過剰気味 首都圏で技術労働者が不足し、地方よりの出稼ぎ労働者の需要が高まっています。
雇用保険制度	（ある・なし） 労働者の賃金に応じて政府、使用者、労働者が同額負担となっています。
☆労働災害	保障の（有・無） 傷病手当、出産手当、障害年金及び死亡手当については施行日より180日後。 休業補償は賃金の50%
☆公害規制	基準の（有・無） 水質、大気汚染、自然資源保護等

(4) 派遣国で技術供与（移転）を実施した上での、現地訓練生に関する具体的体験情報

項目	内容及び留意点
☆訓練生の授業 能力（レベル） 技能の程度	レベル……………日本と同程度です。 取得度合……………単能的習得に終わり、総合的能力向上に欠けています。
知識の程度	レベル……………日本に比べ低い。 取得度合……………数学・物理が弱く、通り一遍の座学に終わり十分に理解されていません。
日本語能力 程度	（ ）かたこと程度 （ ）日常会話程度 ※まったくできない。 （ ）専門分野もできる
英語能力程度	（ ）かたこと程度 （○）日常会話程度 （ ）専門分野もできる

項 目	内 容 及 び 留 意 点
☆授業(作業)態度等 授業態度の 自覚	容易に (○) 自覚した () 自覚しなかった
施設内での 規則・規律 の厳守	容易に (○) 厳守した () しなかった
安全衛生 (整理整頓等) の励行	容易に (○) 励行した () しなかった
☆機材・機器に 関する事項 学科教材	持参教材の活用 (○) 活用した () しなかった 日本語・英語教材を現地語に訳し理解を深めました。
実技教材	持参教材の活用 (○) 活用した () しなかった 教材の使用法、活用法の指導が重要です。
機 器	持参機器・現地機器 () 十分 (○) 十分でない 現地日系企業の協力を得たり、現地で作成しました。
参考資料	持参資料・現地資料 () 十分 (○) 十分でない 日本語、英語教材をタイ語に訳すと共にカウンターパートのレベルにあった内容とし現地規格とJ I Sの対比表を作る工夫をしました。
省力機器・ 工具	普及している省力機器・工具 首都圏及び近隣工業地帯ではNC工作機械が普及しています。
☆施設環境に 関する事項 教室・実習場	十分整備 () されている (○) されていない 日本が協力している施設は整備されているが他の施設は不十分です。
体育施設	設置 () されている (○) されていない 屋外フィールドの簡単なもの
食 堂 更衣室 談 話 室	十分整備 () されている (○) されていない
ト イ レ	十分整備 (○) されている () されていない

項 目	内 容 及 び 留 意 点
☆授業実施中の トラブル 安全衛生	<p>授業の組み方（安全衛生） カウンターパートの意識が低く、防災組織を含めた安全衛生委員会を設立し、安全衛生教育、安全パトロール等の総合的活動を推進しました。</p> <p>○トラブルの「予知」 (Yes・No)</p> <p>Yesの場合 「予知」の内容 実技訓練中の安全衛生の意識の低さからくる事故の発生</p> <p>感じた状況 実技訓練の中で行うべき安全に関する指導が不十分であった。</p> <p>とった対応 安全衛生活動の推進を行い、安全指導のデモンストレーションを行うなどして指導を徹底しました。</p> <p>その結果 おおむね良好で、切り傷程度の発生でした。</p> <p>○トラブルの発生 (Yes・No)</p> <p>Yesの場合 「トラブル」の内容 不安全行動、訓練生による災害発生</p> <p>発生状況 日々の実技訓練中</p> <p>解決策 カウンターパートの指導では改善されず、安全衛生委員会を設立し、センター全体で取り組み、災害発生時対応マニュアル、災害発生報告書作成し意識の高揚を図った。</p> <p>その結果 災害発生の激減。災害発生時の対応が良くなりました。</p>
安全衛生以外	<p>○トラブルの「予知」 (Yes・No)</p> <p>Yesの場合 「予知」の内容 工具類の紛失</p> <p>感じた状況 現地では入手しにくく、便利な器工具が多くあるから</p> <p>とった対応 <ul style="list-style-type: none"> ・使用後の確認と整理整頓を励行しました。 ・全ての部屋や入れ物に鍵をかける。 </p> <p>その結果 紛失量が激減した。</p> <p>○トラブルの発生 (Yes・No)</p> <p>Yesの場合 「トラブル」の内容 <ul style="list-style-type: none"> ・すべてタイ語のため、思うように授業が進められませんでした。 ・公害に対する意識がなく廃棄物の処理がルーズです。 </p>

項 目	内 容 及 び 留 意 点
	<p>発生状況 カウンターパートは英語が話せるとの情報であったが話せませんでした。 廃油をたれ流しにしていました。</p>
	<p>解決策 タイ語教材を作成し、自分なりにタイ語習得に努力をしました。 技術指導および設備の充実を図りました。</p>
	<p>その結果 3年ほどでようやく軌道に乗りました。</p>

(5) 派遣国で生活上知っておかなければならない情報（事柄）

項 目	内 容 及 び 留 意 点
<p>☆生活(日常生活) 上必要な情報 (事柄) 現地の生活 環境等</p>	<p>現地の住居状況 市街地ではブロック住宅が主で、農村では高床式の木造、居間、寝室、トイレが標準で台所は一般的にはありません。 バンコック市内では交通渋滞が激しいが子供の通学に便利なところがよい。 繁華街・スラム街でのアパートの借用は避けた方がよいと思います。</p>
	<p>現地の食事 世界的な食べ物が豊富に揃っており、しかも安価です。 一般家庭では炊事はせず惣菜を買って食べます。 主食の米のみを炊く家庭もあるが、ほとんど三食を屋台で食べるか買って食べます。 水に注意することが必要です。</p>
	<p>現地での衣類購入の難易 全てのものが手に入ります。 暑い国で汗を吸い取る綿製品がよいが高価で少ない。 化繊物は安くて豊富です。</p>
	<p>現地の蚊等の発生状況 蚊、ハエの発生は毎日です。 蚊はデング熱（都市部）、マラリヤ（農村部）を媒介するので要注意です。</p>
	<p>自然災害の発生状況 9～11月に集中豪雨が発生し浸水、洪水をまき起こします。</p>
	<p>風俗・生活習慣の違い 仏教への信仰心が深くデコレーションと歌と踊りが伴った仏教に関する祭が多い。 寺院への寄付をする事が最大の「徳」とされ、また金持ちは貧しい人への「施し」をします。</p>
	<p>現地の娯楽・施設等 デパート、ショッピングセンター、レジャーランド、公園等があり、テレビ、スタッカーボーリング、ディスコ、ビリヤード、ゴルフ、テニスを楽しめます。 ギャンブルは政府が禁止しています。</p>
	<p>現地の祝祭日 仏教に関する祝祭日と王室に関わる祝祭日があり、合わせて12日あります。</p>
	<p>現地の人々の平均的な家族 構 成……………5～6人（祖父母、夫婦、子供） 核家族化が進んでいます。</p>

項 目	内 容 及 び 留 意 点
	<p>毎月の平均生活費（平均的な家族構成で） 月に約3,000バーツ、日本円にして月に約12,000円</p> <hr/> <p>現地の人々の健康状態（風土病・伝染病等） （バンコック） 公害による健康障害、過労、ストレスが増加しています。 （地 方） デング熱、マラリヤによる死亡（特に乳幼児）。タイ型エイズが蔓延しています。</p> <hr/> <p>現地の人々の余暇の過ごし方 テレビ、ショッピング、映画、タックロー、サッカー等を楽しんでいます。</p> <hr/> <p>現地の人々の勤労態度 会社に対する忠誠心をもっている人は少なく能率などは気にせずスローペースですが真面目に取り組んでいます。 労働条件（特に給与面で）転職する者は少ないようです。</p>
日常生活	<p>現地での挨拶の仕方 合掌する。相当目上の人には拝むように中腰になる。（上下関係があります。）</p> <hr/> <p>現地での食事の仕方 皿にご飯を盛り、2～3種類の惣菜をのせスプーンとフォークで食べます。 地方では手で食べることもあります。</p> <hr/> <p>現地での料理の作り方 生物はほとんど食べません。炒めるか、炊くか、煮ます。 しょう油や唐辛子で味をつけ、甘辛い料理が多く、一般的な野菜の他に薬草を入れます。</p> <hr/> <p>現地でのゴミの出し方 分別収集はしません。スーパーの買い物袋、空きダンボール等分別しないで決められた場所へ出しておきます。</p> <hr/> <p>現地での買い物の仕方 マーケットで値札がついていても値切れます。デパート以外は値切り交渉があいさつがわりになります。 日本製品の価格は2倍程度です。</p> <hr/> <p>現地での生活必需品の供給度合い サニタリー用品、石鹸、生理用品等は種類も多く豊富です。清潔好きで香料を好むので石鹸・シャンプーは日本以上に種類が豊富ですが、炊事をする家庭が少なくその用品が少ない。</p> <hr/> <p>現地での電車・バスの乗り方 電車はありません。 市内バスは車掌が集金（一律料金）し、降りたい停留所で声をかけて降ります。 長距離列車・バスは事前にチケットを購入します。</p> <hr/> <p>現地での風呂の使い方 浴槽に入る習慣はありません。シャワーか桶でかけ水をかけます。一般には温水装置はなく（外国人向け住宅にはある）寒期は昼間に水を使います。</p> <hr/> <p>現地でのトイレの使い方 水洗式がほとんどであるが、紙を使って紙を流せるものと紙を使用しないで桶の水で洗い流すものがあります。便器は日本のしゃがみ形に似ており、最近ウォッシュレットのようなシャワーのついたものもあります。</p> <hr/> <p>現地での国際電話のかけ方 ダイヤル直通（001）が可能です。郵便局でも所定の用紙に記入し、その場で通話できます。</p> <hr/> <p>現地での郵便物の出し方 日本のシステムとほぼ同じです。ポストは各所にありますが、盗難等の心配があるため郵便局が安全です。</p>

項 目	内 容 及 び 留 意 点
	<p>現地での病院へのかかり方 健保制度はありません。私立病院は公立病院より経費が高くつきますが、設備もサービスも日本に比べ悪くありません。</p> <p>現地の人との付き合い方 相手のプライバシーを大切にします。真面目に話しをすれば必ず信頼されます。大声で怒ることを特に嫌います。</p>
そ の 他	<p>派遣国の伝統芸能 タイダンス（宮廷舞踏劇）、雅楽</p> <p>派遣国のスポーツ タックロー、タイ式ボクシング、サッカー</p> <p>派遣国の国技 タイ式ボクシング</p> <p>その地域で立ち寄らない方が良い場所（具体的に） ゴールデントライアングルの近隣の少数民族部落（麻薬） マレーシア国境近くの山間部（共産ゲリラ） ミャンマー、カンボジアとの国境（宝石関係ブローカー）</p>
☆生活中的（トラブル・危険）の予感	<p>○トラブル・危険の「予感」 (Yes・No)</p> <p>Yesの場合 「予感」の内容 クーデター、民主化運動などの混乱。 外国人の誘拐や強盗の可能性</p> <p>「予感」の発生状況 TV、ラジオ等の報道に接して 日本人商社マンの誘拐事件の発生報道に接して</p> <p>とった対応 外出を避けた。 普段通りの生活や仕事と現地人とのつきあい。</p> <p>その結果 トラブルはなかった。</p>
☆生活中的（トラブル・危険）の発生	<p>○トラブル・危険の「発生」 (Yes・No)</p>

(6) その他

項 目	内 容 及 び 留 意 点
☆派遣専門家への参考事例	<p>◎おもしろい話</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タイ女性に対し「キレイ」というべからず「KIREI」とは「汚い」の意味です。 ・年末年始のお祭で、軍や警察が出店していました。なんと実弾による射的場でした。景品もありなかなか楽しいものでした。 ・現地職員のための職員宿舎が50戸完成し入居したが宿舎を改造し職員相手にタバコ、酒、日用品の商売を職員の奥さんが行っていました。また独身者の下着類の洗濯も請け負っていた奥さんもいました。 ・蟻が多く、雨になると蟻が電柱に登り変圧器が故障します。電柱や建物の一部が蟻で真っ黒になります。

項目	内容及び留意点
	<p>◎困った話</p> <ul style="list-style-type: none"> 雇った運転手が1年半で6人。全ての運転手が給料前借りをして、結局は踏み倒された。運転未熟、遅刻欠勤、飲酒運転が多く、残りの半年は自分で運転しました。 最初トイレで紙を使わずに済ますことにとっても抵抗がありました。慣れると「痔」にならず非常によいと思います。 寒期は4ヶ月も近く雨が降らず水不足になり断水や水圧を下げる。2階のトイレやシャワーの水の出が非常に悪かった。 雨の降り始めに突然停電する。実習途中の安全やパソコン使用中に支障をきたした。 <p>◎裏話</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員、警官、軍人などは公務員であるが副職が認められており、各種のアルバイトをしたり、公職を利用しての商売も多くみられる。給料では購入が不可能な車に副職で儲けて乗っている者も多い。 男女関係はおおらかである。日本に比べて早婚であるが、離婚も多い。子供をかわいがる国民なので子供ができて気にもせず再婚する者も多い。 カンボジアとの国境へ行ってポルポト軍から発砲されたり、逆に兵士に土産を渡しカンボジア領内へちょっとお邪魔したことも。 毒グモにかまれて3日間意識もうろうとなってしまった。タイのサソリ、毒グモは死ぬことはないが、とても気持ち良くなります。赤蟻はかまれると熱がでてくるしみます。
☆派遣国のタブー	<ul style="list-style-type: none"> 仏教批判 王室批判 人前で恥をかかせること 子供の頭を簡単に撫でること 半袖、半ズボン、ミニスカート等で寺院に入ること 人前で男性が女性に触れること 食べる時音を立てること 肌を人前で露出すること

4. インドネシア

(1) 派遣先国の一般情報

項目	内容及び留意点
☆国の概要	
面積	192万km ² 、日本の約5.2倍
人口	1億8千万人（1992年現在）、日本の人口の約1.5倍
気候	四季（ある・なし） 熱帯雨林地帯
☆国民性	
言語	公用語……インドネシア語 他の使用語……英語、民族語
宗教	イスラム教 87.1% キリスト教 8.8% ヒンズー教 2% 仏教 1%
☆国情	
治安	日本に比べて それほど悪くありませんが、ひったくり、すり、空巣などが多いようです。
日本との関係 (対日感情等)	比較的よいようです。 ただし、対応の仕方によっては、反日デモの発生する可能性もあります。

項 目	内 容 及 び 留 意 点
☆歴 史 建 国	1945年
☆経 済 通 貨	単位はルピア、レートは約0.053円（1993年現在）
G N P	1人当たり610ドル、日本の約1/40倍
日本のODA	(ある・なし) 年間13億ドル
☆産 業 電 力	電源のボルト 220V 周波数 50HZ
水道供給状況	(良い・普通・不足) 上水道は、一部住宅地に普及していますが、飲料水には適しません。
資 源	主な資源……………石油、木材、石炭、天然ガスなどです。
☆住宅事情	(良い・普通・不足) 普通だと思います(A・B氏) 不足気味です(C・D氏) ジャカルタ地区は供給不足で割高です。
☆保健衛生 保健制度	(ある・なし) 国立病院に限ります。
薬局・病院・ 診療所	医薬分業制度 病院の数は日本に比べて少ないようです。
医 師	人口比において日本の1/12～1/15程度です。
風土病・ 伝染病等	(ある・なし) マラリア、デング熱、コレラ、肝炎、チフス、赤痢、パラチフス、肺結核などです。
生 水	(飲める・飲めない)
☆交通・通信 道 路	整備状況……………車の増加に追いつきません。 混雑度合……………ジャカルタ市内が特にひどいようです。 マナー等……………良くありません。
鉄 道	整備状況……………主要都市間の単線鉄道のみです。 混雑度合……………朝夕時にはラッシュがあります。 時間は正確か等…本数も少なく不正確です。
空 港	整備状況……………整備されています。 混雑度合……………ゆとりがあります。 時間は正確か等…ほぼ正確です。
放 送	時 間 帯……………朝6時から夜12時までの間、どこかの局で放送しています。 局 数……………国営TV, ラジオ 各1 民放 4
郵 便	所用日数等……………日本から5～7日程度で届きます。
電 話	整備状況等……………電話のつながりも悪く普及率も低いです。

(2) 派遣先国の人材育成情報

項目	内容及び留意点
☆教育 教育制度	義務教育……………小学6 (1994年より中学3までになる予定です) 就学率……………中学 56.6% 高校 38.5% 大学 9.1% 進学率等……………高校 60% 大学 5~10%
日本語教育	学校教育として実施 (Yes・No) 専門に行っている施設の有無 (Yes・No) 民間の専門学校があります。
英語教育	学校教育として実施 (Yes・No) 専門に行っている施設の有無 (Yes・No) 民間の英会話スクールで行っています。
☆職業訓練 訓練制度	求職者に対する基礎訓練が主で、訓練期間は2~4ヶ月です。 中級・上級コースもあります。
技能検定制度	1991年法的に整備ができましたが、実施はまだ一部の職種のみです。(1級から3級まで)
訓練職種	機械系, 自動車系, 電気系, 建築系, 事務系, 農業系, 雑系
訓練施設	数 : 大規模 15 中規模 21 小規模 117 計 153 設備: 大規模校は良好ですが、小規模校には問題があります。
民間訓練施設	数 : 合弁企業等に多くありますが、数は不明です。 設備: ---
指導員	数 : 労働者所管 3,500名 質 : 企業経験が少なくOJTが必要です。

(3) 派遣先国の労働事情情報

項目	内容及び留意点
☆労働 労働条件	勤務時間 (40時間/週) 有給休暇 (12日/年)
賃金	支払い (日給・週給・月給) で約3,200ルピア (最低賃金)、日本円で約160円 大卒初任給 (月に) 15万ルピア、日本円で約7,500円 高卒初任給 (月に) 11万ルピア、日本円で約5,200円 (1993年現在)
労働人口	約7,450万人
失業率	約2.76%
有効求人倍率	約0.7倍
定年制度	(ある・なし) 公務員一般職で55才です。
年金制度	(ある・なし) 公務員及び軍人には適用されています。
労働力事情	(良い・普通・不足) 労働力人口増加率が3.7%であるため、労働力の確保は難しくありません。
雇用保険制度	(ある・なし) 現在保険法案の検討をしているところです。

項目	内容及び留意点
☆労働災害	保障の(有・無) 労働災害保険協会(ASTEK)が、1977年に制度化されました。
☆公害規制	基準の(有・無) 排水及び排気の基準はありますが、自動車排ガスの規制はありません。

(4) 派遣国で技術供与(移転)を実施した上での、現地訓練生に関する具体的体験情報

項目	内容及び留意点
☆訓練生の授業能力(レベル) 技能の程度	レベル……………高校卒(新卒) 取得度合……………日本人同様のみこみは早く、特に手先が器用です。
知識の程度	レベル……………高校卒(新卒) 取得度合……………日本の高校の1、2年程度の力です。
日本語能力程度	() かたこと程度 ※訓練生はまったくできません () 日常会話程度 () 専門分野もできる
英語能力程度	(○) かたこと程度 () 日常会話程度 () 専門分野もできる
☆授業(作業)態度等 授業態度の自覚	容易に (○) 自覚した () 自覚しなかった
施設内での規則・規律の厳守	容易に (○) 厳守した (A・B氏) (○) しなかった (C・D氏) しなかった場合のさせ方：厳しく守ることを求めました。
安全衛生(整理整頓等)の励行	容易に (○) 励行した (B氏) (○) しなかった (C氏) しなかった場合のさせ方：見つけ次第話し合って注意を促しました。
☆教材・機器に関する事項 学科教材	持参教材の活用 (○) 活用した () しなかった 理解度を向上させる方法：印刷物のコピー及びOHPの製作などを行いました。
実技教材	持参教材の活用 (○) 活用した () しなかった 理解度を向上させる方法：図表の利用・カットモデルの製作などを行いました。
機 器	持参機器・現地機器 () 十分 (○) 十分でない 十分でない場合の工夫方法：日本及び任国に購入希望を出しました。

項 目	内 容 及 び 留 意 点
参考資料	持参資料・現地資料 <input type="radio"/> 十分 (A氏) <input type="radio"/> 十分でない (B・C氏) 十分でない場合の工夫方法：段階的に調達していく予定です (B氏) 日本国内に後方支援体制をつくっていただきたい (C氏)
省力機器・ 工具	普及している省力機器・工具 人件費が安く普及していません。(A氏) 電動ドライバー及び芝刈機があります。(B氏) ワープロ、パソコン等は普及しています。(C氏)
☆施設環境に 関する事項 教室・実習場	十分整備 <input type="radio"/> されている (A・B・C氏) <input type="radio"/> されていない (D氏) されていない場合の工夫方法：黒板、訓練生の椅子、ロッカー等が未整備です。
体育施設	設置 <input type="checkbox"/> されている <input type="radio"/> されていない されていない場合の工夫方法：広場を利用しています。
食 堂 更 衣 室 談 話 室	十分整備 <input type="radio"/> されている <input type="checkbox"/> されていない
ト イ レ	十分整備 <input type="radio"/> されている <input type="checkbox"/> されていない
☆授業実施中の トラブル 安全衛生	○授業の組み方……カリキュラムの中に組み入れています。 ○トラブルの「予知」 (Yes・No) Yesの場合 「予知」の内容 ・喫煙による火災 ・電源スイッチ ・室内外の温度差による体調変化 感じた状況 実習中の喫煙が気になりました。 とった対応 禁煙場所と喫煙場所の徹底を指導しました。 その結果 日本人がいる場合は守られました。 ○トラブルの発生 (Yes・No)
安全衛生以外	○トラブルの「予知」 (Yes・No) Yesの場合 「予知」の内容 ・コンピューターウイルスの侵入の心配がありました。(A氏) ・盗難、塵埃、故障の心配がありました。(B氏) ・電源ケーブルの破損、白蟻、ゴキブリの心配がありました。(C氏) ○トラブルの発生 (Yes・No)

⑤ 派遣国で生活上知っておかなければならない情報（事柄）

項 目	内 容 及 び 留 意 点
<p>☆生活(日常生活) 上必要な情報 (事柄) 現地の生活 環境等</p>	<p>現地の住居状況 整備の整った一戸建、マンションともありますが家賃が毎年上昇しています。</p> <p>現地の食事 レストラン、食堂、屋台などがありますが、日本人が行く店は限られています。 日本食レストランも多く、又、材料もスーパーなどで容易に入手できます。</p> <p>現地での衣類購入の難易 品質は多少落ちますが、安価に入手することができます。</p> <p>現地の蚊等の発生状況 定期的に殺虫剤をまく必要があります。</p> <p>自然災害の発生状況 地震、台風の心配はありませんが、雨期の洪水には注意が必要です。</p> <p>風俗・生活習慣の違い <ul style="list-style-type: none"> ・半ズボン、サンダルばきで街を歩かないこと。 ・左手で物を渡さないこと（不浄の手）。 ・子供の頭をなでないこと。 </p> <p>現地の娯楽・施設等 ゴルフ、テニス、映画、ゲームセンター、遊園地、公園等があります。 ただし賭事は禁止されています。</p> <p>現地の祝祭日 イスラム、キリスト、ヒンズー、仏教等の宗教に関係する祝日が多いようです。 年間13日ほどあります。</p> <p>現地の人々の平均的な家族 構 成…………… 5～10人 両親+子供3～7人が平均的です。（子供は3人程度が多いようです。）</p> <p>毎月の平均生活費（平均的な家族構成で） 月に約30万ルピア、日本円にして月に約15,000円</p> <p>現地の人々の健康状態（風土病・伝染病等） マラリア、出血性テング熱、チフス、コレラ、結核等です。</p> <p>現地の人々の余暇の過ごし方 ショッピング、公園散歩、雑談、スポーツ、テレビなどです。</p> <p>現地の人々の勤労態度 まじめではありますが、のんびりしており仕事に対する責任よりも自分の生活を大切にしています。</p>
<p>日常生活</p>	<p>現地での挨拶の仕方 時間帯で挨拶の言葉が異なります。 握手による挨拶が主で、大声では話しません。 別れるときや食事の時は挨拶はしません。</p> <p>現地での食事の仕方 現地食は手で食べる人が多いようですが、公式の場ではスプーンとフォークを使います。</p> <p>現地での料理の作り方 生野菜はあまり食べないことです。水道水で洗っても危険です。</p>

項 目	内 容 及 び 留 意 点
	<p>現地でのゴミの出し方 一般にゴミ置場があり、日本とさして変わりません。</p>
	<p>現地での買い物の仕方 スーパーは定価販売ですが、市場では値切り交渉が必要です。</p>
	<p>現地での生活必需品の供給度合い 日本食品も含め特に問題はありません。（ジャカルタ市内）</p>
	<p>現地での電車・バスの乗り方 外国人はほとんど利用しません。（料金先払い方式です）</p>
	<p>現地での風呂の使い方 現地人は1日1回以上の水浴をしています。 外国人はバスタブ付き住宅が大半です。</p>
	<p>現地でのトイレの使い方 大きなホテル、ビル以外ではトイレに紙を置いていない所が多いようです。 （一般には水を使って洗います。）</p>
	<p>現地での国際電話のかけ方 ダイヤル直通で日本にかけられます。（ただし、国際電話会社の手続きが必要です。）</p>
	<p>現地での郵便物の出し方 郵便ポストに投函できますが、ホテルのメールボックス等の利用の方が紛失の恐れがありません。</p>
	<p>現地での病院へのかかり方 プライベートクリニックは午後の診療が多い（公立病院の医師が兼務）ので、信頼できる情報による病院選びが大切です。</p>
	<p>現地の人との付き合い方 宗教上の配慮を十分にすることが大切です。たとえば、大声で話さない、子どもの頭をなでない、左手で握手をしないなどです。</p>
<p>そ の 他</p>	<p>派遣国の伝統芸能 ジャワサラサ、バリダンス、ガメラン、ワヤンクリットなどです。</p> <p>派遣国のスポーツ サッカー、バトミントン、テニスが盛んです。</p> <p>派遣国の国技 バトミントンです。</p> <p>その地域で立ち寄らない方が良い場所（具体的に） スラム街、人の多く集まるバス停、路地裏、夜路、雑踏及び旧市街地には、立ち寄らない方が安全です。</p>
<p>☆生活中的（トラブル・危険）の予感</p>	<p>○トラブル・危険の「予感」 (Yes・No)</p> <p>Yesの場合 「予感」の内容 使用人の態度が気になりました。(A氏) 交通事故が心配されました。(B氏)</p> <p>「予感」の発生状況 使用人を解雇するときです。(A氏) 運転手の未熟さと無謀運転です。(B氏)</p> <p>とった対応 雇用契約の明文化とプラスアルファで配慮しました。(A氏) 毎回注意しました。(B氏)</p> <p>その結果 トラブルは生じませんでした。(A氏) 大変良くなりました。(B氏)</p>

項 目	内 容 及 び 留 意 点
☆生活中的（トラブル・危険）の発生	○トラブル・危険の「発生」 (Yes・No)
	Yesの場合 「トラブル・危険」の内容 使用人との金銭面のトラブル及び物の紛失等がありました。
	発生状況 買物をさせると金額が合わない、小物が時々なくなるなどのことがありました。
	解決策 その都度話合いましたが、話し方が大切です。。
	その結果 直ってきています。

(6) その他

項 目	内 容 及 び 留 意 点
☆派遣専門家への参考事例	◎おもしろい話 ・インドネシアの公務員と仕事をするとき、 「あせらず、あきらめず、あてにせず、あなどらず」 ——先輩より ・ゴルフをして 「たくさんたたけば体にいい、少なくたたけば気分がいい」 ——キャディより
	◎困った話 ・インドネシアでは国家予算の30%が不正に使用されている（個人に入ってしまう）と言われています。このため上から下まで汚職に染まっているようです。もちろん、訓練の現場でも例外ではありません。(A氏) ・文化、歴史、習慣、宗教等が日本と根底から異なりますので、個人の責任感、金銭感覚、未来予測といった基本的感覚の相異を最初から認識しておくべきだと思います。
	◎裏話 ・スハルト大統領は72才になり今期限りで引退すると思われていますが、後任が誰になるかが大きな問題で、場合によっては暴動も予想されます。
☆派遣国のタブー	・基本的には政治、宗教の話はあまりしないことです。 ・言論の自由が日本ほど認められていません。 ・イスラム教の教えに反対することは全てタブーです。

5. ブラジル

(1) 派遣先国の一般情報

項目	内容及び留意点
☆国の概要 面積	851万km ² 、日本の約22.5倍（東西4,328km、南北4,320km）
人口	1億4,615万人（1991年現在）、日本の人口の約1.2倍 白色 54.2% 褐色 38.9% 黒色 5.9% 黄色 0.6% 不明 0.4%
気候	四季（ <u>ある・なし</u> ） 南部地域では四季を感じるが、北部地域でははっきりしない。 いずれにせよ日本のように変化は激しくない。 北部（マナウス）の月別平均最高気温は29.9℃～32.9℃、最低気温は22.4℃～24.0℃ 南部（クリチバ）の月別平均最高気温は18.7℃～26.0℃、最低気温は6.1℃～17.2℃
☆国民性 言語	公用語……ポルトガル語 他の使用語……インディオ言語もあるが、ほとんど使用されていない。
宗教	ローマカトリック 89% プロテスタント 6.6% 無宗教 1.6% 心霊教 1.3%
☆国情 治安	日本と比べて悪い こそ泥、強盗が多いので危険地域や夜間外出は控える。また強盗に出会った時は抵抗しない方がよい。
日本との関係 (対日感情等)	日系移民は農業分野で貢献しており、近年は工業分野での技術力が尊敬されている。 米国人に比べて信頼されている。 最近サンパウロ市内では、日系人による犯罪が増えている。
☆歴史 建国	1822年 ポルトガル人アルバレス・カブラルによりブラジルが発見された。 ドン・ペドロ I 世によりポルトガルからの独立宣言が1822年に行われた。
☆経済 通貨	単位はクルゼイロ、レートは？円
G N P	1人当たり2,212USドル（GDP）（1987年）
日本のODA	（ <u>ある・なし</u> ） 技術協力800万ドル、無償資金協力2,200.5万ドル（1988年）
☆産業 電力	電源のボルト 110（127）、220、380、110（127）、220が一般的 周波数 60Hz
水道供給状況	（ <u>良い・普通・不足</u> ） 断水が多いので各家庭やアパートでは屋上にタンクを設置している。
資源	主な資源……鉄鉱石、ボーキサイト、金、マンガン、石灰石
☆住宅事情	（ <u>良い・普通・不足</u> ） 低所得者層の住宅（公営住宅）が特に不足している。 外国人は治安上の問題から中心部のアパートを利用するため、家賃は高い。
☆保健衛生 保健制度	（ <u>ある・なし</u> ）
薬局・病院・ 診療所	公営病院は少なく、低所得者が主として利用する。 中高所得者は民営病院を利用する。また医薬分業である。薬局は多い。

項目	内容及び留意点
医師	平均レベルは日本より低いと思われるが、優秀な医者もいると聞いている。
風土病・ 伝染病等	(ある・なし) 最近は特に気をつけなくても良いが、奥地に入る時はマラリアなどの事情について調査が必要である。
生水	(飲める・飲めない) 現地人は水道水を煮沸して飲料水としているが、中高所得者はミネラルウォーターを購入している。
☆交通・通信 道路	整備状況……………総延長1,496,131km (舗装率9.1%) うち国道66,561km (舗装率75.4%)。 北部は普及率が低い。1,000平方km当り20km程度。 南部、南東部は1,000平方km当り500~700km 混雑度合……………大都市の市街地は混雑が激しい。 マナー等……………運転マナーは悪い。雨期は道路の舗装の損傷が多いので運転に注意が必要です。雨期は幹線道路も不通になる場合があるので遠出には注意が必要です。
鉄道	整備状況……………大都市にわずかに整備されている。遠距離用も少なく、主として貨物用です。国民の足は主としてバスと自家用車です。
空港	整備状況……………比較的良く整備されている。 混雑度合……………バケーションの期間は混雑するが通常は簡単に予約が取れる。 時間は正確か等…おおむね正確です。
放送	時間帯……………早朝より深夜まで放送されてます。 局数……………テレビ局は大都市では5~6局あり、サンパウロでは日本語放送もあります。
郵便	所用日数等……………1週間位 郵便ポストは少なく、一般的には郵便局まで出向く必要があります。郵便局は混雑しています。ホテルは代行してくれます。
電話	整備状況等……………比較的良く整備されている。 大都市は国際電話もダイヤル直通です。 電話ボックスは市内専用が一般的ですが、電話局、空港などでは市外、国際電話がかけられます。 コレクトコールでかかってくる間違い電話が多く、言葉が理解できないと支払うはめになります。

(2) 派遣先国の人材育成情報

項目	内容及び留意点
☆教育 教育制度	義務教育……………初等教育 (小学校と中学校で8年間) 初等教育の年数は8年間であるが、三部制で1日4時間の授業です。 就学率……………88% 学期はじめの生徒数の10%が退学、25%が落第、65%が次の学年に進級 進学率等……………中等教育 (高校に相当し3年) 同年代人口に対する学生の比率25% 高等教育 (短大、大学、大学) 同年代人口に対する学生の比率12.3%
日本語教育	学校教育として実施 (Yes・No) 一部の大学に日本語学科があります。 専門に行っている施設の有無 (Yes・No) 民間の会話学校では日本語のコースが多くあります。 サンパウロの一地区 (リベルダーデ) では日本語で生活できる。日系人も三世、四世になると日本語のできない人が多くなっています。

項目	内容及び留意点
英語教育	学校教育として実施 (Yes・No) 高校以上では英語教育に力を入れています。従って大学卒のほとんどは英文専門書の理解はできるが、会話は弱い。 専門に行っている施設の有無 (Yes・No) 英会話学校は多い。ポルトガル語風に発音する人が多い。
☆職業訓練 訓練制度	労働者の賃金の1% (大企業は割増) を職業訓練用経費に充当する制度があり、これを利用して内国職業訓練機関が訓練施設を運営しています。主として中学校修了者 (未修了者を含む) を対象とした養成訓練であるが近年高卒者を対象としたコースも増加しており、また向上訓練も行っています。 運営に関して国の関与はほとんどなく企業団体の意向が強く反映されています。
技能検定制度	制度はないが、技能競技会は行われています。
訓練職種	機械、自動車、電気、電子、繊維、建設、出版、通信、造船、化学などがあります。
訓練施設	数 : 約500校 内国工業職業訓練機関運営 (SENAI) が直接運営 商業関係はSENACという機関があります。 設備: 基礎的な設備は整っているが新技術には対応していません。
民間訓練施設	数 : 事務関連の民間訓練施設は地方にあるが (データは入手していない。) 第2次産業に関するものはほとんどない。 設備: ---
指導員	数 : 大学卒は学科、工業高校卒は実技 (関連する学科も含む) を担当している場合が多く両方できる指導員は少ない。工業高校卒は週30時間以上担当しておることから十分な数とはいえない。 質 : 優秀な人は民間企業に就職するのでレベルはあまり高くありません。

(3) 派遣先国の労働事情情報

項目	内容及び留意点
☆労働 労働条件	勤務時間 (8時間/週) 有給休暇 (30日/年)
賃金	支払い (日給・週給・月給) で約 (?) 日本円で約70,000円~80,000円 大卒初任給 (?) 日本円で約50,000円~60,000円 高卒初任給 (?) 日本円で約40,000円~50,000円 職種別賃金体系となっているため学卒賃金という概念はあまりなく、データもない。 技術協力プロジェクトの例を示しているが、これがブラジルの平均的なものとは言えない。 インフレが激しいので日本円でのみ示しています。
労働人口	約8,000万人 (1987年) 10歳以上で就業または求職中の人を「経済活動人口」と呼ぶ。このデータを記入した。
失業率	約4.83% (1987年) 潜在失業者を含めると実質15%程度と考えられます。
有効求人倍率	約 (?) 倍
定年制度	(ある・なし) 30年以上勤務するか、65才に達すると年金受給資格が取得でき、この時点が目安となります。 定年に関する明確な規定はないと思われれます。
年金制度	(ある・なし) 勤続30年または65才で公的年金が受給できますが、日本と同様公的年金は低いので別途基金を積み立てる方式も普及しつつあります。

項 目	内 容 及 び 留 意 点
労働力事情	(<u>良い</u> ・普通・不足) 若年労働者（10才以上29才以下）の割合は1988年で48%と高いが未熟練労働者が多い。未熟練者は最低賃金に近く、また年功序列賃金体系ではなく、他の企業への売り込みにより高収入を得ることが多いので労働力の移動が激しい。 費用をかけて養成しても簡単に他企業へ移るので注意が必要です。
雇用保険制度	(ある・ <u>なし</u>) 日本のような雇用保険制度はないが、企業が労働者名義で給与の8%を積み立てる義務があり、解雇や住宅取得の時に引き出せます。解雇の場合は40%上乘せで支払われ、他の企業へ移っても継続できます。
☆労働災害	保障の (<u>有</u> ・無) 国家社会保障院に障害レベル毎に細かい規定があります。
☆公害規制	基準の (<u>有</u> ・無) 基準はあるがデータ入手が出来ません。

(4) 派遣国で技術供与（移転）を実施した上での、現地訓練生に関する具体的体験情報

項 目	内 容 及 び 留 意 点
☆訓練生の授業能力(レベル) 技能の程度	レ ベ ル……………日本より高いです。 日本との技術協力によって設立された日伯電気・電子職業訓練センター、工業計装技術センターは、ブラジル国内においてモデルとなるセンターであったので、日本よりは高レベル設定されています。 取得度合……………電気・電子分野では知識・技術に関するものが多いが、ブラジル人もかなり器用で意欲的に取り組みます。
知識の程度	レ ベ ル……………高校卒業者の職業訓練は日本より高く設定されています。 取得度合……………大学を休学して入校した訓練生も多く優秀な者が多い。
日本語能力程度	() かたこと程度 () 日常会話程度 ※まったく理解できない。 () 専門分野もできる
英語能力程度	() かたこと程度 ※一般的に会話のできる人は少ないが、専門書の理解はできる人が多い。 () 日常会話程度 () 専門分野もできる
☆授業(作業)態度等 授業態度の自覚	容易に (○) 自覚した () 自覚しなかった 全く問題はなく、授業態度は良好です。
施設内での規則・規律の厳守	容易に (○) 厳守した () しなかった 全く問題は起こっていない。
安全衛生(整理整頓等)の励行	容易に (○) 励行した () しなかった 作業場、工具室等では日本の学校・センター等より良く整理されており、工具等が紛失すると現地指導員が弁償する場合があります。

項 目	内 容 及 び 留 意 点
☆教材・機器に 関する事項 学科教材	持参教材の活用 (○) 活用した () しなかった 主として日本の教材を現地語に翻訳して使用しましたが、米国の英文教材またはそれが現地語に翻訳された文献も多く、一部それを採用してあります。専門家の語学力の問題から、理論だけの技術移転では苦勞します。機械を動かしながら併せて理論の説明を行う、いわゆる、実学一体ならより効果的な技術移転ができます。
実技教材	持参教材の活用 (○) 活用した () しなかった 実技教材として完成した物は、理論を短期間に理解させる上で効果があり、その意味で十分活用したが、部品を組み合わせて回路を作り上げる実技は時間がかかるが、大切なものと考えており、そのための機械部品を多く持参したのも効果がありました。
機 器	持参機器・現地機器 (○) 十分 () 十分でない 持参機器についての性能は十分であった。また高価な物を除いて台数は十分であった。現地調達機器は納期が守られず、当初は授業の入れ替えも度々ありました。現地では情報（パンフレット）が十分でなく、性能の把握に苦勞した。また相手国の財政上の問題から十分な物が揃わないこともありました。
参考資料	持参資料・現地資料 (○) 十分 () 十分でない 基礎学科については、英文またはその翻訳物も多く不自由しなかったが、先尖技術に関する物、実技に関する参考書は少なく、日本から持参したものを使用しました。
省力機器・ 工具	普及している省力機器・工具 機械系、電気系の測定器や工具はドイツ又は日本の合弁企業の製品が多く、またその性能も満足できたが、民族系企業の製品は一般に質が悪い。
☆施設環境に 関する事項 教室・実習場	十分整備 (○) されている () されていない 協力機関が財政的基盤を持っていたので何ら問題はなかった。一般的に実習場には教室が隣接されており、生徒数が多い場合は班編成を行いある班が実習している場合は他の班は学科や実習準備をする等、設備・機器を有効に利用していました。
体育施設	設置 () されている (○) されていない 体育館は設置されておらず、屋外のバスケットコート又は校内外のランニングが普通であった。一般的に学校教育での体育はあまり重要視されていないように思われる。
食 堂 更 衣 室 談 話 室	十分整備 (○) されている () されていない 一般に食堂が設置されており、職員、訓練生共に利用しているが設置されていない場合でも街中に軽食店が多い。更衣室はたいてい設置されている。談話室は特になく食堂がよく利用される。

項 目	内 容 及 び 留 意 点
ト イ レ	十分整備 (○) されている () されていない
☆授業実施中の トラブル 安全衛生	授業の組み方 (安全衛生) 科目としての実施はなく、実技の中で必要な説明を行っていました。 ○トラブルの「予知」 (Yes・No) ○トラブルの「発生」 (Yes・No)
安全衛生以外	○トラブルの「予知」 (Yes・No) ○トラブルの「発生」 (Yes・No)

注) 技術移転は訓練生にはなく、指導員に対するものであったので、全くの素人に教えるものとは異なり大きな問題は起こらなかった。内容が電気・電子であったことにもよるが、安全にはあまり気をつかわなかった。現地の指導員が訓練生に教えている授業を時々見ましたが、訓練生は概して真面目でクラス運営上、トラブルが起こる予感は生じませんでした。

(5) 派遣国で生活上知っておかなければならない情報 (事柄)

項 目	内 容 及 び 留 意 点
☆生活(日常生活) 上必要な情報 (事柄) 現地の生活 環境等	<p>現地の住居状況 都市部では強盗が多く、一軒家を借りることは厳禁。守衛付きのアパートに入居するのが望ましい。 停電が多く、エレベータの停止に対する対応や水の供給がストップされるので、飲料水の常時確保が必要です。</p> <p>現地の食事 肉、魚、果物、野菜は多く、殆どの食料は現地調達でき日系人が多いため日本食品も入手は簡単です。</p> <p>現地での衣類購入の難易 殆ど何でも揃うが、木綿製の下着は質が悪い。現地人はアンダーシャツを着る習慣がなく入手困難です。</p> <p>現地の蚊等の発生状況 都市部では殆ど問題はないです。 地方やゴルフ場では毒ヘビ、毒グモ、サソリ等が時々見られます。</p> <p>自然災害の発生状況 雨期には集中的な雨があり、よく道路が不通になります。 自家用車での遠出は複数台で行く必要があります。</p> <p>風俗・生活習慣の違い ヨーロッパでの生活習慣が根づいており、公共の場で他人に迷惑をかけることを極端に嫌います。 個人生活が重視されるのでパーティー等への強制的な参加を指示するのは控えた方がよい。 酒での失態は人格を見られるので注意した方がよい。</p> <p>現地の娯楽・施設等 海岸でのスポーツ、特にサッカーとビーチバレーが盛んで、サッカー場はいたる所にあります。 中流以上は会員制のクラブでテニス、一部ではあるがゴルフも行われています。 日本人は会員制クラブ等に子供を連れて行くことが多く、大声を出す等マナーに問題がありました。</p>

項 目	内 容 及 び 留 意 点
	<p>現地の祝祭日 殆どがキリスト教に関するもので、日本と同程度の日数です。 サッカーの世界選手権の試合日は臨時に休みになることが多い。</p> <p>現地の人々の平均的家族 構 成…………… 4 人（中流以上では夫婦と子ども 2 人）。一般的に子どもは多い。</p> <p>現地の人々の毎月の平均生活費（平均的家族構成で） 日本円にして月に約50,000円～80,000円（カウンターパートの例） 最低給与（86 U S ドル）以下の人が60%を占めている。</p> <p>現地の人々の健康状態（風土病・伝染病等） 衛生状態が良くないので皮膚病が多い。 特に家政婦は悪くシラミ等を持っていることもあります。</p> <p>現地の人々の余暇の過ごし方 仲の良いグループでバーベキューを囲んで、談話、ダンス等で過ごすのが一般的であるがサッカーに興じる場合が多い。</p> <p>現地の人々の勤労態度 暇を見ては雑談しており、勤勉とは言えません。特に官庁の事務処理は気が遠くなる程遅い、民間では効率的に仕事をしている所も多くなりつつあります。</p>
日常生活	<p>現地での挨拶の仕方 初対面は握手をし、親しい人が（特に女性）久しぶりに会うと抱擁するのが挨拶の一般的なやり方です。</p> <p>現地での食事の仕方 ナイフ、フォークの使い方は、高級レストラン以外は自己流で問題はありません。 音を立てたり、口を大きく開けるのはよくない。レストランは10%程度のチップを置くのが普通です。</p> <p>現地での料理の作り方 アパートでは焼き魚の煙は嫌われます。</p> <p>現地でのゴミの出し方 分別して出す必要はなく、日本と同じビニール袋を使用します。</p> <p>現地での買い物の仕方 観光地では値引き交渉が普通です。</p> <p>現地での生活必需品の供給度合い 生活必需品は政府が物価統制を行っており、生産者が価格に不満がある時は出荷停止もあるので、ある程度の買いだめも必要です。</p> <p>現地での電車・バスの乗り方 鉄道が普及していないのでバスが庶民の足です。バスは安全であり経路を覚えると便利である。タクシーは現地語を知らないと、ごまかされる恐れがあります。</p> <p>現地での風呂の使い方 通常バスタブはなく、シャワーのみです。アパートには温水器がついているが、電気式は熱量が弱くガス式を選ぶ方がよい。</p> <p>現地でのトイレの使い方 水流が弱く使用済みのトイレットペーパーが詰まることが多い。現地の人は便器内には流さないうで別に処理します。 公衆便所は汚れているので日本人は使用を避ける人が多い。（洋式）</p> <p>現地での国際電話のかけ方 殆どの地域でダイヤル直通となっています。</p>

項 目	内 容 及 び 留 意 点
	<p>現地での郵便物の出し方 一般に郵便ポストはなく、局の窓口で出します。作業処理が遅く時間がかかります。</p> <p>現地での病院へのかかり方 医学用語は特殊であり、ある程度会話のできる人でも辞書を持参した方がよい。公立病院は混雑が激しく、不潔でもあるので、開業医に予約し検診した方がよいようです。</p> <p>現地の人との付き合い方 家族同士の付き合いが多く家庭に呼ばれることが多いです。会話が長く続かない。男だけ飲む機会は少ない。</p>
その 他	<p>派遣国の伝統芸能 各移民がそれぞれの文化を守っているがブラジルの伝統芸能と呼ばれるものはあまりない。空手に似たカポエラが一般的です。</p> <p>派遣国のスポーツ サッカー、バレーボール、テニス、バスケットボール</p> <p>派遣国の国技 サッカー</p> <p>その地域で立ち寄らない方がよい場所（具体的に） 低所得者が他人の土地に住みついているファベータと呼ばれる場所が都市周辺に多くあり、警察でも入りにくいと言われています。</p>
☆生活中的（トラブル・危険）の予感	<p>○トラブル・危険の「予感」 (Yes・No)</p> <p>Yesの場合 「予感」の内容 「何となくやられるかな」という感じがしました。</p> <p>「予感」の発生状況 車に乗る時、若者が雑談のふりしてこちらを伺っていた。</p> <p>とった対応 ドアを開けると、前後をよく注意している振りをした。</p> <p>その結果 このような感じは何回もあったが、一度もトラブルに会っていない。</p>
☆生活中的（トラブル・危険）の発生	<p>○トラブル・危険の「発生」 (Yes・No)</p> <p>Yesの場合 「トラブル・危険」の内容 自家用車で走行中他の車に追突され、後で告訴された。</p> <p>発生状況 相手が日本人だと見ると理不尽な要求をする場合がある。</p> <p>解決策 弁護士を雇い、裁判で争った。</p> <p>その結果 勝訴したが、弁護士費用は戻りませんでした。</p>

(6) その他

項 目	内 容 及 び 留 意 点
☆派遣専門家への参考事例	<p>◎おもしろい話</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブラジルでは電気製品の持ち込みが厳しく、入国時の通関で高額税金が課せられる建前は入国者をランダムに調べるようになっているが、実際は係員が人相や荷物を見て赤ランプをつけているようである。ブラジルの有力者は裏から手を回すので青ランプになるらしい。 ・交通事故では自分に非がなくても補償金はまず取れないので、車両保険は欠かせない ・道を聞くと親切に教えてくれるが、誤りも多い。 ・他人の敷地内に無断で入ると危険。 ・メディア（合図、言葉等）のミスマッチによる事故には充分気を付けた方がよい。 <p>◎困った話 -----</p> <p>◎裏話 -----</p>
☆派遣国のタブー	<ul style="list-style-type: none"> ・指で人を指す。 ・子供の頭をなでる。 ・クーという発音（肛門） ・合図の丸印や、指で示すGoodの丸サインはしない方がよい。

第二節 詳細編

1. マレーシア

(1) 派遣先国の一般情報

項 目	内 容	留 意 点
☆国の概要 面積	330,434km ² 、日本の約0.9倍	東マレーシアと西マレーシアに分かれる。(I氏) 東マレーシア (198,848km ²) 西 (半島) マレーシア (131,587km ²) (U氏) 国土の4/5熱帯雨林ないしは湿地帯 (K氏)
人 口	18.01万人 (1990年現在) 日本の人口の約0.15倍	他民族国家 (マレー系61.7%、中国系29.8%、インド系8.2%、その他0.7%) (I氏) 半島マレーシアでは1,460万人のうちマレイとその他の先住民族が57.3%、中国人が32.1%、インド人が10%、その他が0.6%である。(U氏)
気 候	四季 (ある・なし) 東マレーシアと半島マレーシアの東海岸部には乾期・雨期が有る。(I氏) マレイ半島及びボルネオ地域とも高温多湿、降雨多量であるが、詳しく述べるとマレイ半島では10月から2月まで特に雨量が多く5月から9月までが概して少ない。(U氏)	北東モンスーン (10月から3月)、南西モンスーン (5月から9月) であり気温 (25℃~33℃) 湿度 (80%) がいずれも年平均である。(I氏) 10月から2月の多雨期でも半島の東海岸側では毎日のように雨が降り続き洪水が多発するのに比べ、KLを含んだ西海岸地域では1日1回スコールが降る程度である。(U氏)

項目	内容	留意点
☆国民性 言語	公用語 マレーシア語（英語） 他の使用語 中国語、英語、タミール語	憲法第152条によって国語はマレー語と定められており更に1971年に一部改正し、マレー語を全ての公用目的に際し、必ず使用しなければならないと明記している。（U氏） 近年はマレー語重視政策が採られているが中国人、インド人から不平が出ている。また英語力低下をきたしており、少なからず弊害が生じている。（K氏）
宗教	イスラム教 53% 仏教 17% 儒教・道教 12% ヒンズー教 7% キリスト教 7% 部族宗教・その他 4% (I・U氏)	政府はかなりイスラム教の強化に力を入れている。(例)昼休み、勤務時間終了後コーランの学習会を週4日ほど実施している。(I氏) 国教はイスラム教であるが信仰の自由は憲法で保障されている。(U氏) いずれの宗教も日常生活や思考の規範といった色合いが強く宗教と人々の結びつきは深い。
☆国情 治安	日本に比べて同程度（1993年現在）（I氏） 日本より危険性は高い（日本人は金持ちとされているため）と感じる。(1988年現在)（U氏） 1988年～1990年では日本とそれほど違いはないように感じた。（K氏）	風聞ではひたたくり等あると聞くが今のところ危険は感じない。（I氏） 日本以外の国は程度の差はあれ危険だと考えるべきで常に気を配る必要がある。（U氏） これ以前には治安が悪化したため日本人の多くが一戸建て住宅からコンドミニアムに引っ越した経緯がある。小生の場合は最初からコンドミニアムだったので治安の悪さは殆ど感じなかった。（K氏）
日本との関係 (対日感情等)	対日感情は良く、職業訓練の分野では日本からの援助、日本での研修への参加者が比較的多く親日家が多い。（I氏） 主に構成される3民族によって差がある対日感情の良し悪しの決定要素は第2次大戦で被害の大きかった中国系の人に悪感情を持つ人が多く、マレー系・インド系の人とはそれほどでもないように感じた。（U氏） マレー人及びインド人の対日感情は悪くなかった。中国人は良くなさそうであった。（K氏）	属する民族に限らず、身内の人が被害にあった人は心の中で許していないことを痛感した。（U氏）
☆歴史 建国	1957年（I氏） 1963年8月31日独立（U氏） 1965年8月9日シンガポールが分離独立（調査結果）	ポルトガル、オランダ、イギリスによる植民地支配、日本による占領支配、建国後も共産ゲリラとの内戦等の歴史を持っている。（I氏） 建国以前は、英国領であったが、現在のシンガポールを含んだ領土でマレーシア連邦として建国し、1965年8月9日シンガポールが分離独立し現在に至る。（U氏）
☆経済 通貨	単位は（リンギット） レートは（MR100=2.33円）（1993年10月現在）（I氏） M\$（マレーシアドル）=約50円（1988年現在）（U氏）	リンギットはドルと呼ばれることが多くM\$（マレーシアドル）と表示される。補助単位はセントが使われ100セントが1リンギットである。（U氏）

項目	内 容	留 意 点
G N P	1人当たり \$2,259 日本の約0.1倍 (1990年現在) (I氏) 1人当たり \$1,930 日本の約0.09倍 (1988年現在) (U氏)	1990年 GNP 109,852ミリオン 人口 18.0102ミリオン レート 1M\$=2.7\$ (I氏) 1988年度の日本の一人当たりのGNPは 20,960\$ (U氏)
日本のODA	(ある・なし) 1991年 無償資金協力 8.00 技術協力 60.03 政府貸付 131.82 合 計 199.85 (\$ミリオン) (I氏) 1992年 無償資金協力 6.42 技術協力 63.80 政府貸付 86.90 合 計 157.12 (百万US\$) (U氏)	1987~1991年累計\$2,000.71ミリオン (I氏) 我が国とマレーシア間の2国間ODA供与の 1990年までの累積割合は3.7%である。ちなみに インドネシアにおいては15.5%である。 (U氏)
☆産 業 電 力	電源のボルト 240V (220~240V) 周波数 50Hz	日本から電気製品を持ち込む場合変圧器が必要 である。現地購入可能 (I氏) 変電所に近い所では規定電圧を得られるが遠い ところではかなり低下して200V以下になるこ ともある。また落雷による停電もある。(U氏)
水道供給状況	(良い・普通・不足)	集合住宅ではいったん水槽に貯水するために水 質が悪い。(I氏) 都市部では水道が完備され断水もなく供給され ている。(U氏) 沸騰させてから飲んだ方がよい。(K氏)
資 源	主な資源 石油、パーム油、木材、天然ガス、ゴム、錫 (I氏) 石油・天然ガス、パーム油、天然ゴム (U氏)	右記の資源は1991年輸出高順である。(I氏) 以前は天然ゴム、錫、木材等が主な1次産品で あったが最近油田の開発に伴う生産量の増加、 ゴム林からパームヤシ林への転換、錫資源の枯 渇及び森林資源の枯渇に伴う伐採の規制などで 右記3品が主である。(U氏)
☆住宅事情	(良い・普通・不足)	特に外国人向け集合住宅は家賃が高騰している。 M\$3,500~4,500/月(3LDK、敷金2ヵ月) 但し、現在建設ラッシュとなっており近年中に 値下がりするとの見方も (I氏) 経済的に豊かであると見られる日本人は安全上 の問題から現地の一般庶民と同レベルの住宅に 住むのは危険であるので、セキュリティの良好 なマンションに住むか一戸建ての住居であれば 安全対策にそれなりの工夫が必要である。なお、 外国人が住む比較的安全なマンションは景気の 良いときは外国人の数も増えるので供給不足と なり、家賃も高くなり20万円以上になることも ある。(U氏)
☆保健衛生 保健制度	(ある・なし)	公立保健所・診療所2,682カ所、私立病院161カ 所、医師1人あたり2,560人(KL市内721人、 サラワク5,175人)日本と同じで遠隔地では医療 サービスが受けにくい。(I氏)

項 目	内 容	留 意 点
薬局・病院・診療所	医療技術は日本と同等もしくはそれ以上である。 (I氏) 都市では病院・診療所は完備しており農村地帯に対しては拡充に努めている。薬局は日本ほど多くないがスーパーなどには薬を置いている。 (U氏)	この国で出産・手術した邦人もかなりおり、特に問題となったことは聞かない。 (I氏) 医師との会話ではやはり言葉が問題となり、医師の能力差も大きいようであるの現地の日本人によく聞くと良い。またJICA事務所で用語集を配布している。 (U氏)
医 師	歯科(日本より丁寧に時間をかけ治療する) 検診(各項目を詳細に説明する) (I氏) インド系に次いで中国系の医師が多く、先にも記したが能力差が大である。一般的に見て日本より医療レベルが劣るとは思えない。 (U氏)	僅か1度だけのみの体験に基づくものである。 (I氏) 中国系医師の中には日本への留学経験を有する人が居るので巡り会えば語学の面でも幸いである。歯科医はすぐに歯を抜くので評価を確かめてからかかると良い。 (U氏)
風土病・伝染病等	ある(2)・なし() Dengue熱、コレラ (KL市内でも発生している) (I氏) マラリア、赤痢、コレラ(1988年現在) (U氏)	もし不安なら破傷風、肝炎などの予防接種を受ける。(経口感染する食当たり疾患の食中毒、A型肝炎、腸チフスに注意) (I氏) これらの伝染病は官民あげての撲滅運動の結果、マラリアにかかる蚊が少なくなるとともに激減しているが、消化器系の伝染病は未だ多くニュースにもならない。 (U氏)
生 水	飲める()・飲めない(3)	KL市以外は飲めない。KL市内でも多くの人はミネラルウォーターを飲用している。当地の人々はミネラルウォーターをあまり信用していない。 (I氏) 公共水道について考えると、一概に飲めないとは言えない、浄水や給水施設は完備されていてもそれを維持管理する人が時には手抜きすることがあるときいている。いずれにせよ普通の腹の人は飲んで大丈夫と考える。 (U氏)
☆交通・通信 道 路	整備状況 連邦道13,028km、州道50,417km、舗装率74% 年々高速道路、一般道とも整備が良くなっている。都市の中心部でのラッシュアワー時の混雑は激しい。マナーについては我々から見ると最悪であると言えよう。 (U氏) 整備状況は良いし、マナーも比較的良いが通勤時、スクール時はラッシュとなる。 (K氏)	特にKL市内の道路は良い。しかし他の輸送手段(電車、地下鉄)がないため混雑がひどい。欧米を手本にした道路形態のためかロータリーが多く慣れないと戸惑うことが多い。 (I氏) 乗用車で両側か、どちらかのサイドミラーが付いていない車が多く、後方確認無しの車線変更をし、スピード狂で車間距離を取らない。バイクなどがすぐに車線変更するので注意が必要である。高速道路でも牛や人が横断する。
鉄 道	整備状況 総延長2,222km、6次M.PでKLを中心として複線化を計画(一部工事中)半島マレイにはシンガポールから発した国有鉄道がゲマスで東西の2本に分岐し、西側の線はKLを通過してタイのバンコクまで通じている。東側は境のクタバルの先まで敷かれている。運行回数は少なく通勤にも使えないので混雑もしていないようであるが時間は正確であると考えている。 (U氏)	概ね時間通りの運行である。 (但し、1日に5~6本である。) (I氏) 最近では観光客向けにシンガポールからバンコク迄の直通列車も運行されていると聞く。いずれにせよ急行や特急を利用するときは座席指定を取っておくべきである。 (U氏) 日本のイメージにおいて判断すると著しく異なる。減多に走っているところを見たことがなく、通勤などには利用されない。日本の場合駅を中心に町や繁華街が発展するがここでは関係ないようである。 (K氏)

項目	内容	留意点
空港	整備状況 国際空港5カ所、国内空港10数カ所、 その他地方空港 首都に近いスパン空港を初め他の国際空港はよく整備されているが地方空港の整備は今一步の感じである。時間は比較的正確であるが便によっては混雑がひどい。(U氏)	入国の際に免税範囲(品物、量)、持ち込み禁止品目注意が必要である。 KL(スパン空港)の国際線は便数の割にはカウンターが少ない。(I氏) イスラム教徒がメッカへ巡礼に行く時期(数週間)は特に国際空港は大変な混雑で発着も乱れることもある。(U氏)
放送	時間帯 TV(15:00~24:00) ラジオ(6:00~23:00) 局数 TV(国営2CH、民営1CH) ラジオ(FM6局)	テレビの放送方式がPAL方式であるため日本のテレビは使用できない。(I氏) TVのニュース放送は時間帯によってマレイ語、英語で行っているがドラマや映画等は制作側によって英語、マレイ語、中国語、タミール語によって放送される。(U氏)
郵便	所用日数等 5~7日(マレーシア日本へもほぼ同じ)但し、クーリエサービスを利用すると	小包等の中には衣類や食品を含むと中央郵便局まで取りに行かねばならず場合によっては税金を支払わねばならない。
電話	整備状況等 約200万台(8人に1台)(I氏) 普及率は日本と比べると低いが整備状況は良好である。都市では公衆電話もよく見かけるが慣れないと使いづらい。(U氏)	日本へダイヤル直通する場合、予めISDに登録(M\$100)が必要である。(I氏) マレーシアの電話事情の良さは発展途上国の中でも特別の部類に入ると言われる。感じとしては日本とそう変わらない。(K氏)

(2) 派遣先国の人材育成情報

項目	内容	留意点
☆教育 教育制度	義務教育 義務教育制度はないが小・中学校の授業料は無償。 初等Primaryは6年で在籍者2,447.2千人、就学率99.8%、教員数120千人である。中等Lower Secondaryは、3年で在籍者943.9千人、就学率85%であり、Upper Secondaryは、2年で在籍者368.5千人、就学率60%、教員数は中等全体で72.5千人である。(I氏) 高校(3年間)大学予科(2年間)大学(3~6年間)と制定され国内の大学(国立のみ6校)への進学率は約3%であるが、見落としてはならないのが海外への(主として米先進国)の大学への留学生が国内生と同数以上存在することである。尚、中学段階が英才教育を行うための機関として5年から7年間全寮制で教育するレジデンシャルスクール(全国で39校)が設置されている。(U氏)	Primary Schoolには中国・インド系の生徒のための学校が約3割程有り、終了後Remove Classを経て1年次へ進む。 Lower Secondary修了時のテストS.R.P.(L.C.E.)で各コースに振り分けられさらにUpper Secondary時のテストS.P.M.(M.C.E.)でさらに選別される。(I氏) 小学校、中学校では教師と校舎不足から早朝組と午後組の2部制を取っているところが多い。大学の国外留学生が多いのは国内の定員が少ないことも原因の一つである。(U氏) マレーシアには厳密な意味での義務教育はなく、非就学児童の保護者に対する罰則はない。(K氏)

項 目	内 容	留 意 点
日本語教育	<p>学校教育として実施 Yes (1)・No (3)</p> <p>専門に行っている施設の有無 Yes (4)・No (0)</p> <p>正規のカリキュラムに「日本語」はないが日本留学を目指す学生の特別コース(例; マラヤ大学予備コース2年間)などは学校教育の中に取り入れられている。その他日本の高専入学の為の1年コース、職業訓練生の為の6カ月コース、その他一般の人のため民間の施設がある。 (I氏)</p> <p>国立マラヤ大学内に主として日本への留学生希望に対する日本語講座が開設され、数人の日本人教師が派遣されている。更にマラエ工科大学の付属する機関でルックイースト政策に基づく日本への派遣研修生に対する日本語教育が毎年6ヵ月開講され、200名前後の派遣予定者が学んでおり、教師は現地の教師とJICAから専門家として派遣された日本人教師が共同で指導している。 (U氏)</p> <p>現地の日本大使館主催の日本語会話教育、その他に主に中国人が経営する日本語塾があった。 (K氏)</p> <p>マレイシア大学において「マレイシア東方政策」として、大学予科の中で100名、日本の大学に留学するために2年間100名中10名は韓国も受け入れている。その他に働く青年に日本で研修をする70名JICAの協力で実施している。 (M氏)</p>	<p>民間の英語教室はよく見かけるが、日本語教室は見ることはない。 (U氏)</p> <p>施設の語学塾も盛んである。 (M氏)</p>
英語教育	<p>学校教育として実施 Yes (4)・No (0)</p> <p>専門に行っている施設の有無 Yes (3)・No (1)</p> <p>語学学校がKL周辺にはかなりあり(制度的に確立されたもので約10カ所その他個人レベルは多数)英語の他北京語、広東語、マレー語のレッスンを実施している週2回2ヶ月コース(M\$160)があり、個人レッスンは40時間M\$700である。 (I氏)</p> <p>学校教育としては小学校から英語の科目を設けている。専門学校は大小含めて多く見かけた。なかでもKLにはブリティッシュカウンシルという英国系の学校が有名である。 (U氏)</p> <p>高等教育において行っている。英語専門学校(私立)は、多く見られた。 (M氏)</p>	<p>以前は高校や大学の殆どの授業は英語によって行われていたので学歴と英語力は比例していたが現在のようなマレイ語推進政策の強化に従って英語という単なる科目にしかすぎなくなり、若年者ほど英語力は低下している。 (U氏)</p>

項目	内容	留意点
☆職業訓練 訓練制度	<p>Ministry of Human Resources (I T I 10ヵ所 5,767人 (1992年)、CIAS T) Ministry of Education (Vocational Technical School 31,040人 (1990年)) MARA IKM 13ヵ所 3,600人 Ministry of Youth & Sports YTC 4ヵ所 900人 (I氏)</p> <p>公共の技能教育訓練は教育省 (職業高校技術高校及びポリテクニク)、労働省 (産業訓練所及び職業訓練指導員・上級技能訓練センター 略称A S T)、マレイ人信託公団 (マラ職業訓練所及び商業訓練所) 並びに文化青年スポーツ省 (青年訓練所) の4省によって分担・運営されている。 (U氏)</p> <p>教育省 技術学校、職業高校 2年間 ポリテクニク 労働省 産業訓練所 マラ公団 マラ職業訓練所 文化青年スポーツ省 青年訓練所 (M氏)</p>	<p>Ministry of Education (教育省) のものは教育部門にはいる。その他Ministry of Agricultureと民間部門がある。 (I氏)</p> <p>マレイ人信託公団が運営する訓練所はプミブトラ優先策の一環としてマレイ系の子に職業能力を与えるためのものである。 (U氏)</p> <p>マラ公団 (マレイ人信託公団、農漁村の子女対象の職業訓練=都市労働者養成) (M氏)</p>
技能検定制度	<p>NVTC (National Vocational Training Council) が実施しており1993年10月現在 71職種 Basic, Intermediate, Advancedに区別される。(I氏)</p> <p>労働省直属の機関であるNITTCB (全国産業訓練技能検定委員会) によって実施されていた。検定職種は未だ基本的職種 (機械、溶接、板金等) に限られ、それぞれが初級、中級、上級の3レベルに分けられ学科と実技により毎年2回実施されている。 (U氏)</p> <p>労働省傘下の全国訓練検定委員会によって1979年より実施されている。1983年には、機械、金属加工、建築、電気、印刷、服製作など6職種が行われ、受験者数8,135人、合格率55%であった。 (K氏)</p> <p>技能検定のために技能水準は3レベルで設定、初級・中級で1986年検定職種27、受験者12,600名を超えていた。上級は、1986年9職種37名で、開発はこれからの課題である。 (M氏)</p>	<p>金属加工やプラスチック射出成形などの職種は未だ制定されていなかった。一般に上級者は経験不足と機械設備の古いことから合格者は少ない。 (U氏)</p>
訓練職種	<p>I.T.I (Industrial Training Institute) 機械関係15職種、電気関係6、建築関係6、印刷関係1、非金属関係2、(スクラップ&ビルドによって一定ではない。)</p> <p>I.K.M (Institute Kemahiran MARA) 機械関係15、電気関係2、木工・建築関係8 (I氏)</p> <p>4省傘下の教育・訓練施設で実施されている職種は機械金属、電気、土木、調理業、建築、印刷、商業、農業、家政、その他と多岐にわたる。CIAS Tの例では機械、金型、熱処理、金属加工、自動車整備、鋳造、ゴム成形、プラスチック成形、電気、電子、自動制御の11部門である。 (U氏)</p>	<p>以後新設される訓練所の科目では国の工業化の方針にからんでか機械加工、金型制作、電子機器、コンピュータ等に重点が置かれているようである。 (U氏)</p>

項 目	内 容	留 意 点
	機械、電気、電子、建築、商業、家政など10数職種(商業高校)、技術教育では4科、建築、工科、商科、農科、進学の道もある。金属加工、自動車整備、印刷、木工、服製作、理美容、調理 (M氏)	
訓練施設	数・設備 I.T.I (10) I.K.M (13) Vocational Shool (57) Technical School (9) Polytechnics (7) Youth Training (entre-4) Private School (約20) (但し、事務関係、コンピュータ関係は除く) (I氏) 職業高校85年現在37校が37校新設(第5次MP) 技術高校 " 9 ポリテクニク" 3 " 4 " 産業訓練所 " 5 " 5 " マラ職業訓練所" 9 " 3 " 青年訓練所 " 3 (U氏) 人口、工業の規模からみて妥当な数ではないかと記憶している。しかし近年の工業発展に伴う技能労働者の不足への対応のため、施設及び訓練生の倍増を計画しているという事である。設備の状況は機械の型式が古く、機器類の数に比して訓練生の数が多すぎるといった印象を受けたことを覚えている。 (K氏) 教育省・商業高校 68校 技術高校 9校 ポリテクニク 7校 労働省・産業訓練所 10校 職業訓練指導・上級技能訓練センター 1校 マラ公団(マレイ人信託公団) 12校 文化青年スポーツ省 3校 (M氏)	
民間訓練施設	数・設備 Technical course Skilled Craftman course (12コース6~12月) Technical Diploma course (10コース2年) Engineer Diploma course (7コース3年) Vocational course Junior Technician, Arts, Clerical, Service (I氏) 公共職業訓練施設のような施設もKL周辺には幾つかあるがいずれも設備が古く生徒数が多いように感じた。他に小規模の私設職業専門学校も市中には多く、工芸、タイプ、語学、秘書などの他に産業界のニーズに合わせた工業系コースもある。同一地域内関連企業で共同教育訓練施設を設けて、企業内から講師を派遣、レベルの高い内容で始まっていた。民間では数も少ない上に設備も困難。 (M氏)	訓練施設というよりは専門学校あるいは短大の取り扱いである。 (I氏) 小規模の私設専門学校は生徒の奪い合いが激しく開講、閉校が激しい。 (U氏) 日系合弁企業では教育訓練に取り組んでいる。 (M氏)

項目	内 容	留 意 点
指 導 員	<p>数 I.T.I (469人)</p> <p>質 配属先が訓練施設ではないためよくわからないが各 I.T.I 施設で修了前に実施する NVTC の技能検定、Manpower Dept. の修了試験でかなり高い合格率なので問題はない。(I氏) 養成訓練のコースでは生徒数の割には指導員は少なく30人程度の訓練生を指導するのはざらである。質という面では、経験が不足しているという一言であろう。指導員の配置は日本に比して贅沢である。質についてはバラツキがあることと実技の技量はともかくとして理論的知識についてはかなり不足している様に思った。(K氏) 指導員の資質向上の必要性が認識されてきた。高度の教育を修了した者が指導員として採用されつつある。(M氏)</p>	<p>現在は変わっているが以前マレーシア政府は指導員には高学歴は不要と考えていたので大学卒は直ちに管理職にという例が多かったが C I A S T が設立されてからは大卒指導員も訓練生の指導に当たるようになった。(U氏)</p>

(3) 派遣先国の労働事情情報

項目	内 容	留 意 点
☆労働 労働条件	<p>勤務時間 (48時間/週) 有給休暇 (8日/年) ~2年 (12日/年) ~5年 (16日/年) 5年以上 (I氏)</p> <p>勤務時間 (40時間/週) 有給休暇 (25日/年) (U氏)</p> <p>勤務時間 (44時間/週) 有給休暇 (日/年) 1985年~86年進出日系企業対象で調査した企業93社中最多勤務時間である。 (K氏)</p> <p>勤務時間 (38.5時間/週) 有給休暇 (25日/年) (M氏)</p>	<p>女性を雇用した場合 (E.A34)、妊婦に対する保護 (E.A37) がある。Public holidays のうち10日、その他病休の規定がある。(I氏) 公務員でも職種によって週休2日制の部門もある。C I A S T の場合、指導員は週休2日制だが1日の労働時間が長く事務部門では週休1日制で1日の労働時間は短くなっており、週間では両者とも同じであった。(U氏)</p>
賃 金	<p>支払方法月給で (M\$?) 日本円で約 (?円) 大卒初任給 (M\$ 1,200) 日本円で約 (60,000円) 高卒初任給 (M\$ 600) 日本円で約 (30,000円) (1988年現在) (U氏)</p>	<p>地域、職種、規模に規模によりかなりのバラツキがある。(I氏) 学歴による賃金差が大きく公務員の例で見れば中・高卒で採用された人の定年 (55歳) 時の給与が1,000M\$ にならず大卒者の初任給にも至らない実態である。(U氏)</p>

項 目	内 容	留 意 点
	<p>支払方法月給でM \$ 2,962 日本円で約146,000円 レート2.03で換算 大卒初任給M \$ 1,402 日本円で約69,000円 高卒初任給M \$ 550 日本円で約27,000円 (1987年現在) JACTIM 報告書エンジニアリングより (I氏)</p> <p>支払方法月給で (M \$?) 日本円で約 (?円) 大卒初任給 (M \$ 1,366) 日本円で約 (136,660円) 高卒初任給 (M \$ 477) 日本円で約 (47,700円) (1986年現在) (K氏)</p> <p>支払方法月給で (M \$?) 日本円で約 (?円) 大卒初任給 (M \$ 1,300) 日本円で約 (65,000円) 高卒初任給 (M \$ 900) 日本円で約 (40,000円) (1986年現在) (M氏)</p>	
労働人口	<p>約 (662.1) 万人 1990年 (I氏) 約 (566) 万人 1987年 (K氏) 約 (591.7) 万人 1985年 (U氏) 約 (547) 万人 1985年 (M氏)</p>	<p>労働力人口 704.65万人 (1990年) マレーシア政府は人口増加政策を採っているの で労働人口も年毎に増加していくものと考えら れる。 (U氏)</p>
失 業 率	<p>約 (3.4) % 1993年第一四半期(1, 2, 3月) (I氏) 約 (3.9) % 1992年 (U氏) 約 (8.7) % 1986年 (K氏) 約 (7.6) % 1985年 (M氏)</p>	<p>1985年度で7.6%とされていたのに比べると大 きく改善されている。 (I氏)</p>
有効求人倍率	<p>約 (1.32) 倍 1993年 (1, 2, 3月)</p>	<p>日本のような算出方法ではないので (有効期間 の設定、季節調整など) 比較できない。この数 値は公共の職業紹介を通じてのものである。</p>
定年制度	<p>(ある・なし) 公務員55歳、民間も準じて55歳のところが多 いが能力に応じて一定でない企業もある。女 性は一般に45歳である。 (I氏) 公務にはあり、50歳から55歳まで。希望に応 じて年金生活が可能。 (M氏)</p>	<p>日本のような終身雇用制度はないので「定年」 の考え方も異なるのではないか。 (I氏) 50歳から年金制度がある。 (M氏)</p>
年金制度	<p>(ある・なし) 公的年金はあるが民間企業はない。但し、似た 正確のものがE.P.F (Employees Pridentfund 1951) で強制積立預金制度でる。 ・雇用者1人でも加入・登録 ・掛け金は月額賃金によって異なるが約23% (内従業員が10%) ・加入者死亡、55歳に達したとき全額引出 ・50歳、住宅購入時には部分引出 (I氏)</p>	

項 目	内 容	留 意 点
	<p>社会保障としてみた場合、雇用傷害保険制度と従業員を経済面で保障する病弱者年金制度がある。雇用傷害保険制度では、医療面と金銭面の恩典が与えられ、病弱者年金制度では全ての病気や傷害による疾病に対し、年金を支給するもので、その目的は自営業者、特に農民、漁民も社会保障が適用されるようにすること。 (U氏) 公務員は50歳より (M氏)</p>	
<p>労働力事情</p>	<p>(良い・普通・<u>不足</u>) 引き続き企業にとって厳しい状態が続いており労働者不足、特に3K職種では外国人に頼る傾向にある。熟練工については外国人雇用の制約を解除している。 Manpower Dept. Buletin 1993年四半期 求職登録者48,772 (昨年同期)→40,838 新規登録者25,748 (昨年同期)→21,258 求人登録者17,328 (昨年同期)→28,144 (I氏) この国にはブミブトラ政策(マレイ系を主とする原住民)によって就学、雇用、職業、株式保有などあらゆる面で、マレイ系人の相対関係を向上させるための施策が推進されている。従って企業や団体の従業員)構成も、この国の民族別人口割合に応じたものでなければならない。 (U氏)</p>	<p>特に職業別にみると製造業(日本の労働省の分類ではI)で求人者22,884人に対し就職者3,268人と僅か14%である。 ブミブトラ政策に忠実に従えば役員、管理職クラスにも一定割合以上のマレイ系人を配置しなければならないが実態はまだそこまでいっていないようである。 (U氏)</p>
<p>雇用保険制度</p>	<p>(ある・<u>なし</u>) 4事業を柱とする日本の雇用保険制度と同じものはない。少し似たものとして前述のE.P.Fの基金からの支払いがあるが性格は異なる。転職が盛んなことも「失業保険」の意識が低いことの原因かもしれない。人員整理による解雇の場合はEmployment Actsによる手当を支払う。 (I氏)</p>	<p>法律はEmployees' Social Security ACTとSOCISO (Social Security Organization 1969年)がある。 (I氏)</p>
<p>☆労働災害</p>	<p>保障の(有・無) 掛け金 給与によって異なる(例M\$1,500/月事業主M\$27.15 雇用者M\$7.75) 24段階に区別される 災害時 日本と同じく等級により支払いが異なる。 死亡時 掛け金全て返還の他複雑な支払い計算式がある。 (I氏) 雇用傷害保険計画があり、医療面と金銭面の恩典が与えられている。他に病弱者年金計画があり、全ての病気や疾病に対して年金を支給するものでその狙いは自営業者、特に農民漁民にも社会保障が適用されるようにすることである。 (U氏)</p>	<p>月額M\$2,000以上の従業員は対象とはならない。 (I氏) 制度として確立されても支給額が低いのでそれのみでの生活維持は困難とのことである。 (U氏)</p>

項目	内容	留意点
☆公害規制	<p>基準の(有・無)</p> <p>Malaysian Annual G.L Air Quality</p> <ul style="list-style-type: none"> • TSP (Total Suspended Particulate) (浮遊微粒子 90 μg/m³) • Atmospheric lead (大気中鉛 gasoline 含有率を0.4g/ℓ→0.15g/ℓ) • Sulphur Dioxide (SO₂) 350 μg/m³ • Ozone Level 200 μg/m³ • Nitrogen Dioxide (NO₂) 320 μg/m³ • CO 35 μg/m³ <p>Malaysian one hour G.L Water Quality BOD 50mg/ℓ, ammoniacal Nitrogen 2.3mg/ℓ</p> <p>(I氏)</p> <p>大気汚染に対する規制が制定されているしかしその限界値がゆるくまた罰則もあってないがごとしなので公害がひどくなり裁判に持ち込まれるので規制を強める方向にある。</p> <p>(U氏)</p>	<p>最近の公害訴訟の判例では公害発生企業が敗することが多い。</p> <p>(U氏)</p>

(4) 派遣国で技術供与(移転)を実施した上での、現地訓練生に関する具体的体験情報

項目	内容	留意点
☆訓練生の授業能力(レベル) 技能の程度	<p>レベル</p> <p>手作業に関しては優れている。 (機械、木工、ブロック) (I氏)</p> <p>養成訓練は未経験で入校するので全く白紙であるが向上訓練コースへの参加についてはその分野の経験は有しているがそこから少し離れた周辺や関連した部分の経験や知識は殆ど持ち合わせていないので応用がきかないことが多かった。(U氏)</p> <p>レベルは同程度かそれ以上である。(K氏)</p> <p>指導員を対象の訓練であり、目的が明確であること。教材制作担当者の場合が多く、分野について程度は高い。指導員養成コースでは基礎から指導。(M氏)</p> <p>取得度合</p> <p>すでに教材開発を担当、または興味のある者、今後取り組む者等いろいろあるが、取得の度合いは高い (M氏)</p> <p>個人の器用さ、能力差によって異なるが修得しようとする意欲は充分に感じられたし、修得もしていたと思う。(U氏)</p>	<p>配属先が訓練施設ではないため下記から推察してある。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 訓練施設見学(2ヵ所) • 技能検定、技能競技会見学 <p>(I氏)</p> <p>全般に単能工的であったと思われる。(U氏)</p> <p>技能よりも理屈を教えろと言う人も多い。(U氏)</p> <p>向上訓練であったので訓練対象は在勤労働者である。非破壊検査の受講者は技術者レベルの者が多かった。日本の場合はこの分野は既に技能者レベルが受講生の大半を占めている。(K氏)</p> <p>公共職業訓練所、教育省、文化青年スポーツ省、マラ信託公団の指導員等であった。(M氏)</p>

項目	内 容	留 意 点
知識の程度	<p>レベル</p> <p>レベルは同程度かそれ以上である。(K氏) レベルは、新しい分野ではやや低い。(M氏) 日本でもそうであるが個人差が大きく学習意欲や経験の豊富な人は高い知識を有するがそれでも学習機会や資料に恵まれないせいか一般的には日本よりかなり低いと考えられる。(U氏)</p> <p>取得度合</p> <p>NVTCによる技能検定、Manpower Dept. が実施する修了試験の内容から考えても充分取得できている。(I氏) 修得意欲は旺盛で度合いも高いと考える。(U氏) 取得度合いは非常によい。(K氏)</p>	<p>当然の事ながら学歴による差が大きい。日本の訓練生より一般に学習意欲が高いと思われる。修得意欲は人種による違いが大きい。(U氏)</p>
日本語能力程度	<p>(1) かたこと程度 () 日常会話程度 () 専門分野もできる</p> <p>日本語能力は無い。(K氏)</p>	<p>訓練生については日本語を全く知らない人が多い。(U氏) テキストは専門用語の関係もあって英語で作成したが訓練終了後のアンケートではマレイ語のテキストも準備してほしいという声がかかりあった。(K氏) 訓練生の職種や職位によって差が大きい。公務員等は、優れた英語の能力がある。(M氏)</p>
英語能力程度	<p>() かたこと程度 (1) 日常会話程度 (1) 専門分野もできる</p>	<p>(自動車整備科訓練生と雑談した時の感想) 日常会話より話しやすい。(I氏) 高等教育を受けた訓練生の英語力は高い。</p>
☆授業(作業)態度等 授業態度の 自覚	<p>容易に (2) 自覚した () 自覚しなかった</p> <p>企業や訓練所に勤務する人を対象とした向上訓練への参加者はよく自覚していた。マレイ系指導員による授業が終わった後これだけは日本人の指導員に教えてもらいたいとよく込みこんだ質問を持ってきていた。(U氏)</p>	<p>一般論であるが向上心の強い中国系が真剣に授業を受けていたように思うが、指導員がマレイ系だと一部の中国系受講生は民族的反発からか指導員をバカにしていた面も見受けられた。(U氏)</p>
施設内での 規則・規律 の厳守	<p>容易に (2) 厳守した () しなかった</p> <p>規則・法律は有ってないが如しの感がしないでもなかったが我々専門家はこういうモラルに関する事に対して助言はできても強制力はなかった。安全に関することでも彼らの直属の上司からの命令でも無い限り厳守させることは不可能に近いと思われる。(U氏)</p>	<p>規則・規律を守らないのは指導員ばかりでなく課長、時には所長すら同様なので自覚するまで待とうという半ばあきらめの境地である。(U氏)</p>

項 目	内 容	留 意 点
安全衛生 (整理整頓等) の励行	<p>容易に (3) 厳守した () なかった</p> <p>安全衛生への意欲はそれほど高いとは思われなかったがマレイ系の人是一般に身辺を片づけることが好きなのか整理整頓はよく行われていた。しかしそれを安全衛生と結びつけて考えることはなく、実習場に大きく掲げられていたのでそれを指さして何の為に掲げられているのかと口癖のように質問していたので時々でも意識させるように努めた。(U氏)</p>	<p>管理職でもない1外国人の専門家が専門技術的な事項と直接結びつかないことを指導しようとしてもなかなか受け入れられない。所長等の意識改革が早道である。(U氏)</p>
☆教材・機器 に関する事項 学科教材	<p>持参教材の活用 (1) 活用した () しなかった</p> <p>文章ばかりのテキストは現地でも豊富に揃っていたせいあまり活用しなかった。理解を容易ににするためにできるだけ文章を図面やイラストに書き換えるようにしたが、気がついたのが任期の1/2を過ぎたところであったので一部分しかできなかった。(U氏)</p>	<p>過去に多くの先進国専門家から指導を受けているので驚くほど多くのすばらしい印刷教材を彼らは持っているがそれを活用使用せず死蔵の状態であった。(U氏)</p> <p>教材開発の分野では、自発的開発能力が必要。(M氏)</p> <p>C・P(カウンターパート)の自助努力で、教材を開発できるシステムを作ることが必要である。そのために参考資料として教材の持参は望ましいが、C・P自身に教材資料の収集、開発の方法を指導すること。(M氏)</p>
実技教材	<p>持参教材の活用 (2) 活用した (1) しなかった</p> <p>派遣される前に現地の専任専門家と頻りに連絡を取り合って必要で不足しているものだけを持参したので十分に活用できたと思っている。理解させるための工夫としては金型例で言えば内部構造が外から見えるように透明なプラスチック材で模型を作成した。(U氏)</p> <p>日本より素材を購送し、これらを現地で加工し訓練用試験片を作成し、訓練に使用した。日本国内においても非破壊検査の訓練のスタイルは実験・実技と学科とがうまく組み合わされて実施されているのでいわゆる実学融合に近い訓練が出来たと思っている。英文の書籍を購送してこれを抜粋してテキストを作成し、実験、実技と組み合わせて訓練したので比較的良く理解が進んだものと考えている。(K氏)</p> <p>教材は特に持参しなかったが、AV機械販売業者等とC・Pと意見交換や論議を尽くした。アイデアの交換が、やる気や理解を深めることになった。(M氏)</p>	<p>金型の部分となる既製品の入手が困難なので入手できなくても自作できることを指導する必要がある。(U氏)</p>

項 目	内 容	留 意 点
機 器	<p>持参機器・現地機器 () 十分 (○) 十分でない</p> <p>十分でない場合の工夫方法 先ほど述べたように持参実技教材は前もって打ち合わせして選択し、持参したので問題はなかったが、プロジェクトが動き出す以前に選定され設置された工作機械には大きく分けて2つの問題があった。1つは金型用鋼材を切削するにはあまりにも馬力が小さすぎたこと、2つめは機種選定が一般機械科用で金型科用にはなっていなかったことである。以上の問題解決の対策の1つは切削量が少なくてすむように訓練課題を小型のものにした。2つには不足する機能の代わりに手仕上げ作業で補った。(U氏) 改造、自作でしのいだ。(K氏) 基本的な機械は、持参なり供与することになるが、現地の技術的レベルとの大きなギャップがあつては、その後のメンテナンスに支障が大きい。現地で調達できる斬新的機材を購入することである。(M氏)</p>	<p>実技教材も含め、非常に古いものが目立っている。一応機器等の基準はあり、一覧表が Manpower Dept. の Training Service Div. にあるが未整理である。基準を必ず満たしているとは思えない。(I氏) 機種選定には後で派遣される専門家やその道の専門家の意見を最大限に取り入れるべきである。(U氏) 赴任前に整備された機器の中には改造を加えぬと訓練に使用できないものがあり、これにずいぶん時間を費やした。(K氏)</p>
参考資料	<p>持参資料・現地資料 (○) 十分 () 十分でない</p> <p>持参資料の選択については前任専門家ともしっかりと綿密に打ち合わせをする必要を感じた。心配してあれもこれもと持参したが使わない資料も多かった。しかし最初に派遣された専門家の場合にはもっと心配されたと思う。現地資料は図書室にはほぼ完備されていたしカウンターパートも過去に援助を受けた欧米の専門家から提供された資料を持っていた。(U氏)</p>	<p>金型関係の英文資料は日本国内で多くは入手できない。現地のカウンターパート自身も持っている印刷資料は私物化して活用しない。(U氏) 協力する項目がはっきりしていたので日本での持参資料の準備が充分に出来た。(K氏)</p>
省力機器・工具	<p>普及している省力機器・工具 それがないと金型が機能しないと言ったような省力機工具を除いては全く普及していなかった。但し、予算さえあればいくらかでも入手可能であった。(U氏) AV機器は日本製品が多量に普及している。(M氏)</p>	<p>最新式の工作機械や省力機工具は日本製はもちろん欧米や韓国製のものが販売されていたが未だメンテナンスのサービス体制が完備されていないのでちょっとしたトラブルや故障でも修理に大変手間取ることになる。(U氏) すべて日本からの供与機材である。(K氏)</p>
☆施設環境に関する事項 教室・実習場	<p>十分整備 (3) されている (1) されていない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室、実習場とも面積が不足 ・我々にとっては教室の照度不足 ・冷房設備がなく暑い <p>(I氏)</p>	<p>マレーシア人は目がよいせいかわるいと目が逆に疲れるとのことである。 暑さについても日陰であれば特に問題はないとの返事である。(I氏) マレーシアの場合は当方の要求がほぼ100%通り、その対応が早かったので業務が大変やりやすかった。(K氏)</p>

項 目	内 容	留 意 点
	<p>十分に整備されていた。(M氏) 私が派遣された所は十分に整備され何も問題は無かった。(U氏)</p> <p>されていない場合の工夫方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ X線撮影室については遮蔽ボックスと制御ボックスを分離し、この間を離し放射線線量計による漏洩放射線の計測が可能ないようにした。(カウンターパートともに) ・ 非破壊検査中には室内を暗くする必要があったので暗幕用カーテンが使用できるようにした。これはマレーシア側の予算で現地業者施工によるものである。 ・ 写真現像装置に伴う給排水管配管工事はマレーシア側の予算で現地業者施工で行った。(K氏) 	
<p>体育施設</p>	<p>設置 (1) されている (1) されていない</p> <p>屋内、屋外とも整っている。(I氏)</p>	<p>気候が暑いせいなのか、十分に活用されていたとは言えなかった。個人の趣味でピンポンをしていた程度であった。(U氏) 在職者訓練であり、期間は1～3週間なので特に体育の時間は気にしていなかった。(M氏)</p>
<p>食 堂 更 衣 室 談 話 室</p>	<p>十分整備 (2) されている () されていない</p> <p>食堂は完備されていたが利用者が少ないせいかメニューに限りがあった。 更衣室は専用の場所が無く、それぞれが自分の机の横で着替えていた。 談話室は日本人専門家用の1室が設けられていた。(U氏) 食堂はティータイム、談話室として利用されていた。(M氏)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食堂、談話室は全訓練生を対象としたもの ・ 更衣室は各課にあり、その他「お祈り」の部屋もある。(広い敷地に機械的に配置されている)(I氏) 午前・午後それぞれティータイムの習慣がある。(M氏)
<p>ト イ レ</p>	<p>十分整備 (2) されている () されていない</p> <p>整備されていたが、現地の人は後始末に紙を使う習慣が無く、水で洗い流すためと、同室内にシャワー設備があったので常に床面に水がたまっていた。(U氏) 十分整備されている。(M氏)</p>	

項 目	内 容 及 び 留 意 点
☆授業実施中の トラブル 安全衛生	<p>○授業の組み方 私たち日本人専門家が直接授業する事はないのでカウンターパートを指導して授業の中に必ず入れることにしたがそれほど必要性を感じていない様子である。(U氏) X線に関しては現地の法令から許容被爆線量を調べ、作業管理区域の設定を指導した。(K氏) 教材開発の技法に組み込まれていた。(M氏)</p> <hr/> <p>○トラブルの「予知」 Yes (1)・No (1)</p> <p>Yesの場合 (U氏) 「予知」の内容 扇風機や電動工具を実習場中央部で使用する場合、電源コンセントが壁面に設けられているので延長コードを使用することになるが床面を這うコードの上を人が歩くことに危険を予知した。</p> <p>感じた状況 人がコードを踏んで歩くことは上記したが特に機械系職種の場合、コードの上に鋼の切削屑(切り粉)が乗っていたり、靴底に切り粉をかんでいるのでそれらの切り粉によって被膜が破られショートする事を経験から感じた。</p> <p>とった対応 延長コードを床面に這わせる場合で通路を渡るときは必ず直角に横切るようにしてその部分の(通路幅)のコードを保護するために鋼板でカバーを作り使用するようになった。</p> <p>その結果 カバーをこまめに使用させることが次の課題となったが、少なくともカバーを使用していれば踏んだ為にショートするという不安はなくなった。</p> <hr/> <p>○トラブルの発生 Yes (2)・No (1)</p> <p>Yesの場合 (U氏) 「トラブル」の内容 これは指導員の習慣の問題であるが指導員は実技指導のとき作業衣として医者が着ているような袖に長い白衣を着用する。日本の機械工場では回転物に巻き込まれる可能性の強いこのような作業衣は絶対に着ない。</p> <p>発生状況 上記のような危険性の高い衣類は着用しない「これは支給された制服である。」「欧米先進国で研修を行ったとき皆これを着て作業していた。」等の答えで耳を貸そうとしない。私が考えるにこれは指導者としてのステータスを表す衣類であるらしい。</p> <p>解決策 1 専門家がカウンターパートを指導しても耳を貸さないので専門家会議で話し合いチーフアドバイザーから所長に申し入れてもらった。</p> <p>その結果 所長に申し入れてもらったが効果は全くなかった。 その理由 1. 裾が長いことが原因による災害は今の所発生していない。 2. これを着用することで指導員が満足するなら良いではないか。 3. 技術的な事以外に指摘するのは内政干渉である。</p> <hr/> <p>Yesの場合 (K氏) 「トラブル」の内容 トリクロールエチレン蒸気による悪寒があった。</p> <p>発生状況 浸透探傷用試験片を超音波洗浄機で洗浄中、トリクロールエチレンが部屋に充満した。</p>

項 目	内 容 及 び 留 意 点
	<p>解決策 窓を開け外気を入れ換気した。</p>
	<p>その結果 悪感がしばらく続いた。</p>
安全衛生以外	<p>○トラブルの「予知」 Yes (1)・No (2)</p>
	<p>Yesの場合 (U氏) 「予知」の内容 指導員であるカウンターパートが向上訓練の授業を担当するのに極初歩的な知識しか持ち合わせていない。(何も知らない養成訓練生を相手にするのと同じ感覚である。)</p>
	<p>感じた状況 事前の打ち合わせの段階で話し合っているうちに感じたし、授業を参観してもテキストを棒読みしているだけであった。</p>
	<p>とった対応 もっと勉強するように忠告しても一部の指導員を除いては馬の耳に念仏であったので科長をとうして予備学習を深めるように指示させた。</p>
	<p>その結果 科長は確かに指示していたが、授業の実態を確かめるなどのフォローをしていないので改善されたとは言いがたい。</p>
	<p>○トラブルの発生 Yes (0)・No (3)</p>

(5) 派遣国で生活上知っておかなければならない情報 (事柄)

項 目	内 容	留 意 点
<p>☆生活(日常生活) 上必要な情報 (事柄) 現地の生活 環境等</p>	<p>現地の住居状況 JICA事務所では集合住宅を安全面から勧める。一戸建てに住む日本人家族もいる八カ月程立つが保安面など特に心配したことはない。(I氏) 外国人に家を貸したがる家主は多いし、容易に見つけることができる。しかし金持ちと見られる日本人が一戸建て住居に入居するとセキュリティに気を配る必要があるので、多小家賃が高くてもガードマン付で諸設備が揃った高層アパートの方が安心して生活できるのではないかと。(U氏) 1985年から数年の間一戸建て住宅に住む日本人等が泥棒や強盗の標的にされたことがあり、より安全なコンドミニアムに移り住むということがあった。このため一戸建て高級住宅は空き家が目立ち、逆にコンドミニアムの方は不足となり家賃が暴騰したことがある。(K氏) 十分に入居できる状況にある。(M氏)</p>	<p>契約時に家具等必要なものを忘れず追加する。(日本から持参しない場合) (I氏) 入居時に数カ月分の家賃を補償金として支払うが帰国直前まで入居しているとすぐに清算できない電気、電話、水道料をデポジットから多めに差し引かれるのできちんと清算できるように数カ月前にホテルに移った方がよい。(U氏)</p>

項 目	内 容	留 意 点
	<p>現地の食事</p> <p>辛いものが多く、安価である。(昼食で2～3リングット) マレー、中国、インド、タイ料理など各種そろっている。KL市内には日本料理もかなり(20店程)見受ける。(I氏)</p> <p>自分で料理する場合、日本式料理の材料は一部を除いては殆ど都市部のスーパー(特に日本企業)では揃っている。外食の場合はやはり日本レストランが都市部には多くある。他にはマレイ、インド、中華、西洋の各種レストランが多い。(U氏)</p> <p>中華料理店が多く、日本人の場合困ることはない。マレイ、インド料理はたまには珍しく良いかもしれないが連続して食べることは出来ない。スーパーマーケットがたくさんあり、物も豊富で日本食品は少し高いが豊富である。(K氏)</p> <p>日本の食料も充分ある。(M氏)</p>	<p>マレー料理の店にはアルコールがない。(I氏)</p> <p>日本食レストランでは指導していた日本人コックが帰国し現地人スタッフのみで調理しているところは味付けが大きく変わっている。(U氏)</p> <p>品質管理は日本ほど厳しくないのによく見て買う必要がある。(K氏)</p>
	<p>現地での衣類購入の難易</p> <p>日本より種類、量とも多く、値段はそう変わらない。(I氏)</p> <p>衣類は一般に豊富であるが日本人の好みの柄で身に合うものは少ないので気に入った柄の布地を購入して仕立てると良い。仕立代は安い。(U氏)</p> <p>女性の場合、既製服はなかなかあった物を探すのは難しい。仕立料が安いので作ってもらう人が女性には多かった。(K氏)</p> <p>安価で購入が可能である。(M氏)</p>	<p>事務所によっては冷房をかなり効かせるので日本でいう「合い物」ぐらいは必要である。(I氏)</p> <p>既製品は縫製が良くないものが多い。(U氏)</p>
	<p>現地の蚊等の発生状況</p> <p>赴任前は心配したが西マレーシア(半島部)ではマラリアも一掃されており、網戸無しでも気にならない。しかし蚊が媒介する「 Dengue熱」はKL市内でも発病者がいる。(I氏)</p> <p>都市部でも蚊や蠅は日本より少し多いように思われる。(U氏)</p> <p>蟻のある種に噛まれるといたく、その痛みが後まで続く強烈なものがあるので注意を要する。小生の場合、12階にいたので蠅蚊は殆どいなかったがゴキブリと小蟻が多かった。(K氏)</p>	<p>少なくなったとはいえ、マラリア子防の為の蚊に対する対策が必要である。(U氏)</p>
	<p>自然災害の発生状況</p> <p>短時間の大雨と排水機能が充分でないため道路の冠水、住宅の浸水、崖崩れ等が時々発生する。(I氏)</p> <p>地震が皆無で風害もないので比較的安全である。(U氏)</p> <p>低地など水はけの悪いところは大雨の時冠水することが考えられる。(K氏)</p>	<p>1993年に12月に一週間降り続いた雨が原因と報道された高層マンションの崩壊事故があった。(KL市内)(U氏)</p>

項 目	内 容	留 意 点
	<p>風俗・生活習慣の違い</p> <p>イスラム教徒の信仰の実践に伴う断食、礼拝などがある。(I氏)</p> <p>最も大きく違う点はイスラム教を信じる人が過数を占め、特に私たちが勤めた政府機関は圧倒的にイスラム教が多いので留意する点が多い。(U氏)</p> <p>宗教、特に異教徒の生活習慣に配慮することである。(M氏)</p>	<p>我々日本人は見慣れぬイスラムにどうしても注目するが、こちらの人に言わせると、この国の文化はイスラム、中国、インド、西欧それに固有の文化の融合により独特のマレーシアの文化がすでに確立されているのでイスラムだけに目を向けると見誤る恐れがある。(I氏)</p> <p>日本人が平気で食べていてもイスラム教徒は絶対食べられない食物があること。(例 豚肉、カニ等) 握手も食事をするのも右手であること。(左手は不浄とされる) 子どもが可愛いといって頭を撫でないこと。トイレで紙を使わないこと。(U氏)</p> <p>中国人の旧正月時の行事は爆竹を夜を徹して行うので場所によっては夜眠れないことがあるだろう。(K氏)</p>
	<p>現地の娯楽・施設等</p> <p>映画館、リゾート(海岸、山間部など)施設 (I氏)</p> <p>映画、ウインドウショッピングが好きで映画館も多く都市部にはショッピングセンターも多い。スポーツセンターとしてはサッカーやセバタクローという足でマリを蹴って競うゲームが盛んである。(U氏)</p> <p>ゴルフ、テニス、スカッシュ、卓球、中華料理による会食ショッピング、旅行である。ゴルフ場は安く、コンドミニウムでテニスコート、スカッシュなどがついているところも多い。(K氏)</p>	<p>日本人向けにはカラオケバー、ゴルフ場などがある。(U・M氏)</p>
	<p>現地の祝祭日</p> <p>国民の祝日(12~15日)州によって異なる。(I氏)</p> <p>新年 (1月1日) *中国歴の正月 連邦成立記念日(2月1日) メーデー (5月1日) 釈迦誕生日 (5月12日) *断食明け祭日 国王誕生日 (6月第一水曜日) *犠牲祭 イスラム正月 (8月26日) 独立記念日 (8月31日) ヒンズー教祝日(10月21日) マホメット誕生日(11月4日) クリスマス (12月25日) (U氏)</p> <p>ラマダン明け(断食明け)、中国人の正月インド人のタイプーサン等がある。(K氏)</p>	<p>夏休みはなく、連続休暇(3日以上)はほとんどない。(I氏)</p> <p>この国の祝祭日はイスラム教、仏教、ヒンズー教、キリスト教によるものが混じっており年毎に日が異なる(*印)ものが含まれる。(U氏)</p> <p>中国人の正月は爆竹がうるさくて夜眠れないことがある。(K氏)</p> <p>それぞれの生活習慣に合わせて祝を共にする。(M氏)</p>
	<p>現地の人々の平均的な家族</p> <p>構成…… 4人(子)+2人=6人 (I氏) 6~7人 (U氏) 4~5人 (K氏)</p>	<p>都市部では親と同居が少なくなっている。(I氏)</p> <p>年寄りを大事にする人たちで3世代同居のケースが多い。(U氏)</p> <p>首都では核家族化が見られる。(M氏)</p>

項 目	内 容	留 意 点
	<p>毎月の平均生活費（平均的な家族構成で） 月に約（M\$ 3,000） 日本円にして136,400円M\$ 1=約45円 （I氏）</p> <p>月に約（M\$ 800~1000） 日本円にして4~50,000円 （U氏）</p> <p>月に約（M\$ 1,500） 日本円にして75,000円 （K・M氏）</p>	<p>統計資料がなく、職場の同僚に尋ねたもので、 KL市内40歳前後のおよその平均である。 （I氏）</p> <p>食物、及び住居コストが、安価である。（U氏）</p>
	<p>現地の人々の健康状態（風土病・伝染病等） 寄生虫が日本に比べ多く、テング熱、コレラ 一部の地区でマラリアがある。（I氏） 一見健康状態は良い様に見えるが高血圧の人が 多いときいた。風土病・伝染病については テング熱、マラリア、赤痢、コレラ等がげら れる。（U氏） 問題なし。（K氏）</p>	<p>平均寿命 男 69.00歳 女 73.50歳 （マレーシア半島のみ）</p> <p>乳児死亡率 13.50人（1000人当たり） Year Book 1992/93より</p>
	<p>現地の人々の余暇の過ごし方 ピクニック、ビーチなどリゾート地へ家族と ともに出かけることが多い。（I氏） 映画、ショッピングなどには皆さんよくいく が経済的に食べるのが精いっぱいという状態 なので旅行などは少なく断食明けに出身地へ 里帰りする程度である。（U氏） テレビ観賞、自然公園等へのピクニック水浴 び、テニス、タクロー、おしゃべり、チェス （K氏）</p>	
	<p>現地の人々の勤労態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人差はあるが概して勤勉である。しかし 自分の職務以外について余り関心を持たな い。与えられた仕事に対して忠実にこなす が上司への反発は余り見られない。 ・電話のベルが鳴ってもなかなか取らない。 ・勤務中の間食が多い。 <p>（I氏）</p> <p>想像していたよりは良く働くが超過勤務は殆 どせず時間になると皆サッと帰る。中国人は 良く働きよく遊ぶ。（K氏） 勤勉である。（M氏）</p>	<p>個人差はもちろんあるがそれを無視して考える と民族差が大きいように思う。私の受けた印象 は中国系が勤労意欲が強く、続いてインド系、 マレー系となる。相対的に急ぐことはせずに明 日でも良いことは明日にするという態度の人が 多かったのは事実だが学歴差による収入の差が 余りにも大きいので最初からやる気をなくして いる人が多かったのも事実である。（U氏）</p>
日常生活	<p>現地での挨拶の仕方 男性とは握手（右手・余り強く握らない）女 性特にムスリム、インド人とは握手は余りし ない。（I氏） 朝、昼、夕と挨拶の言葉がある。朝挨拶した から昼は省略して良いという具合にいかず1 日3~4回は挨拶する。（K氏） 日本と殆ど変わりはない。（M氏）</p>	<p>日本ほどではないにしても朝などは挨拶してい る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性から男性に握手を求めてはならない ・子供の頭を撫でない。 ・左手で握手をしない。 <p>（U氏）</p>

項 目	内 容	留 意 点
	<p>現地での食事の仕方</p> <p>マレー系 右手で直接食べる人も見受けるが 外食の場合、殆どの人がスプーン、フォークを使用する。</p> <p>中国系 箸も使用する。いずれも間食をする 人が多く、歩行中の飲食が目立っている。 (I氏)</p> <p>マレイ、インド人は素手(右手)で直接食べ物を持って食べる。またその方が道具(箸、フォーク)を使つての食事より旨いと考えている。 (K氏)</p> <p>民族、宗教上食事の内容が・習慣が違う。 (M氏)</p>	<p>客と一緒にいるときはスプーンやフォークを使うが客のいない時や気心の知れた客の場合は手で食べる。(右手のみ) 卓上にヤカン状の物とボウル(鉢)が置かれる。それは右手を洗うための物であつて飲む物ではない。 (U氏)</p>
	<p>現地での料理の作り方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・油で炒めることが多い。 ・香辛料を多用する。 ・飲み物は甘味料を多用している。(I氏) <p>殆どの料理にココナツオイルを使い、他に唐辛子やカレー粉をよく使っている。(U氏)</p>	<p>火を通さないものはなるべく食べない方がよい。 (K氏)</p>
	<p>現地でのゴミの出し方</p> <p>毎日収集する。可燃物、不燃物の区分を特に指示されないが日本流に区別するのが身にしみ込んでおり区別して出している。(I氏)</p> <p>可燃物と不燃物は分けて出さなければならない。日本のようにゴミ用の専用袋は未だ無い。 (K氏)</p>	<p>高層アパートの場合は各階にダスタシュートが設置されているが、一戸建ての住居の場合は週に1~2回地域毎のステーションに回収に来ていた。ステーションでは必ず箱に入れること。 (U氏)</p>
	<p>現地での買い物の仕方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定価は明示されており、賞味期間も記入され日本と同じである。(日本製品がかなり豊富) ・ウェットマーケット(朝市・夕市)では新鮮で安く手にはいる。(但し日本食品はない。) <p>(I氏)</p> <p>スーパーマーケットで買い物をする場合には日本と変わりがない。それ以外のところで買い物をするときは値引きの交渉を試みるべきだと思う。 (K氏)</p>	<p>日常の食料品や衣類を購入するスーパーではだめであるが非日常的な衣類や時計を買う時の値札はあてにならないのでそれ以下に値切り交渉が必要である。 (U氏)</p>
	<p>現地での生活必需品の供給度合い</p> <p>日本より豊富で特に問題なし。(I氏)</p> <p>品が揃っていることは日本と何ら変わらないが中国、韓国、台湾製品が多いので品質面で難点を持つ物が多いと感じた。(U氏)</p> <p>伊勢丹、忠実屋、八百半デパートあり、供給は十分であった。 (M氏)</p>	<p>米(ジャポニカ種)の中で輸入米は一時大量に店頭に並び売れ尽くすとはばらくの間無くなり、現地の米で我慢すると言うことがときどきあった。又輸入米でも古いものは虫が多い。(K氏)</p>
	<p>現地での電車・バスの乗り方</p> <p>電車は無く、公共の交通手段としてはバスのみである。運行経路を数字で表しているので行き先によりバスを選定する。ミニバス(一律料金60セント)は運転がかなり荒い。(I氏)</p> <p>乗ったことはないがスリやひったくりに狙われると言うことをきいたことがある。(K氏)</p>	<p>鉄道は日常生活に殆ど使えないのでバスについて述べると完全に庶民の足として機能しているが行き先は掲示してあつても途中の経路が現地の人でも分からないと言っている位複雑である。 (U氏)</p>

項 目	内 容	留 意 点
	<p>現地での風呂の使い方</p> <p>マレー人は清潔できれい好きである。宗教との関係もあるかと思う。朝夕シャワーを冷水により使用する。お湯は使用せず、ましてやバスタブにお湯を貯めることはない。但し、ホテル、アパートにはバスタブは通常設置されている。(I氏)</p>	<p>湯を入れたバスタブにつかるという習慣はなく浴室の隅に設けられた水溜から杓で汲んで頭から浴びる。それも湯ではなく、水であり、しかも早朝に行う。(U氏)</p>
	<p>現地でのトイレの使い方</p> <p>ホテル等はトイレトペーパー等も用意しており問題はないが職場とか一般の所では、ゴムホースあるいは汲み置きしてある水だけでペーパーはない。デパートなどは料金を取るところが多い。(I氏)</p> <p>地方ではペーパーは使わず水で洗う。(M氏)</p>	<p>紙は使わない。後始末は水を使い必ず左手で洗う。水は浴室の項で述べたように隅にバケツや水溜が設けてあるのでそこから杓で水を汲んで使う。時には水道の蛇口からホースが引いてあることがある。日本人は必ず紙を持っている方が多い。設けられていても水で濡れていることが多い。(U氏)</p>
	<p>現地での国際電話のかけ方</p> <p>(自宅から)</p> <p>ISDに加入していれば直通可能であり、そうでない場合、オペレータに申し込まねばならない。(M \$ 0.54/6秒)</p> <p>(自宅外)</p> <p>国際電話可能なスタンドがありテレホンカードが使える。職場等では殆どオペレータを通しての申し込みである。ジャパングダイレクト(日本直通電話)がある。(I氏)</p>	
	<p>現地での郵便物の出し方</p> <p>日本と同方式であるが郵便ポストが少ない民間も参入しており取りに来てくれる上に所要日数・時間も短い若干割高である。小包を送付するには税関申告書が必要である。(I氏)</p>	
	<p>現地での病院へのかかり方</p> <p>KL市内には日本語の通じる医師、日本人医師、看護婦のいる病院もある。(私立病院なので公立病院に比し高額)夜間の急患にも応じ、技術的にも心配はない。通常電話等で予約する。(I氏)</p>	<p>大きな病院は予約制である。(K氏)</p>
	<p>現地の人との付き合い方</p> <p>特に気をつかっていないが、日本流「コミュニケーション」ができないのが寂しい。時間にはルーズな面がある。日本よりも個人主義が強く他人に余り干渉しない。(I氏)</p> <p>潜在的に民族間の対立意識(特に中国系とマレー系)があるので悪口を言ってもそれに乗らないことである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宗教を絶対に誹謗しないこと。 ・相手の習慣を尊重すること。 <p>(U氏)</p>	<p>日本のように義理人情を相手に期待してつき合うと失望する場合がある。総じてドライであると言えよう。(K氏)</p>

項 目	内 容 及 び 留 意 点
そ の 他	<p>派遣国の伝統芸能 ダンス……………地域によって異なる。例 (Joget, Mak Yong) (I氏) 伝統音楽と舞踏、ワヤングリット (影絵) (U氏)</p> <hr/> <p>派遣国のスポーツ サッカー、バトミントン、ホッケー (I氏) サッカー、ホッケー、セバタクロー (U氏)</p> <hr/> <p>派遣国の国技 セバタクロー (I氏) たこ揚げ、こま競技、シラット (U氏)</p> <hr/> <p>その地域で立ち寄らない方が良い場所 (具体的に) こちらの人に尋ねると危険な場所などないとの返事である。 (J I K Aの答) 繁華街でも夜遅くひとりで歩かない方がよい。(I氏)</p> <p>モスク (イスラム寺院) 異教徒が観光気分で立ち入るのを嫌う。但しKLのオールドモスクは観光客にも開放されているスラム地域。(U氏)</p> <p>イスラム教で宗教色が特に強く、黒尽くめの服装をした狂信的な人々の部落があるがこの様なところは危険を感じることがあるという。チャイナタウンなども恐がっている人がいたがどのように恐いのか分からない。(K氏)</p>
☆生活中的 (トラブル・危険) の予感	<p>○トラブル・危険の「予感」 Yes (1)・No (3)</p> <p>留意点：赴任して約8カ月程経過したが今の所、窃盗などトラブルに遭遇したことはない。狙う方もプロだし、金品の有無の見極めを最重点にしているものと思われる。しかし噂ではひったくり、車の盗難など聞くので油断は禁物と注意している。(I氏)</p> <hr/> <p>Yesの場合 (U氏) 「予感」の内容 泥棒や強盗が多いということで玄関の前に更に鉄格子の扉を設け、また全ての窓にも鉄格子をつけた家が多かった。</p> <hr/> <p>「予感」の発生状況 ――</p> <hr/> <p>とった対応 我が家にも鉄格子をつけてもらった。</p> <hr/> <p>その結果 それが役に立つことがなかったので幸いである。</p>
☆生活中的 (トラブル・危険) の発生	○トラブル・危険の「発生」 (Yes・No)

(6) その他

項 目	内 容 及 び 留 意 点
<p>☆派遣専門家への参考事例</p>	<p>◎おもしろい話</p> <ul style="list-style-type: none"> スーパーマーケット等での買い物の仕方は日本と同じである。籠やカートに入れてレジ迄持っていくレジの係は片手で商品を片手でレジスターのキーを叩く。買い物の中に「ポークハム」あり、無意識に取り上げたレジの係は「ポークハム」と知って思わず声を上げ放り出したという、なにもそこまでしなくてもと家内が後でぶつぶつ言っていた。宗教の力は強い。お金を不浄とする国はないのだろうか。(I氏) マレイ語を早く覚える方法として次の言葉を教えられた。カタカナがマレイ語である(米はナシ、魚はイカン、菓子はクエ、人はオラン、) マレイシアで仕事をするには三ズの精神が必要であると言われた。(その三ズとはアセラズ、アキラメズ、アナドラズである。) 私はあるレストランでアイスコーヒーを注文したところ熱いコーヒーを持ってきたので私は「アイスコーヒーを注文したはずだ」とウエイトレスに言ったところ彼女は「気にせず少し飲み」と言うので諦めて飲み始めたところ氷を持ってきてカップの中に入れてくれて「これで問題はないだろう」と得意顔で向こうに行った。(U氏) 最初の入国時に荷物のチェックでパソコン用テープを「これは何だ」としつこく聞かれた。相手はどうもいかかわしいビデオテープではないかと疑ったらしい。(K氏) 回教徒では右手と左手の用途が異なると、食卓で手を洗うことがあるが右手のみとする。左は不浄のものでうっかり両手を差し出さないようにする。(M氏)
	<p>◎困った話</p> <ul style="list-style-type: none"> 車を購入した際、日本では自宅、勤務先に納入するがこちらでは営業所に連れて行かれそこでキーと車をボンと渡され後は自分で勝手にどうぞとなる。赴任して間もなく西も東も分からない状態でさあどうぞと言われて困った。車の少ない田舎ならともかく、一応首都のKL市内、しかも一方通行がやたら多い、混雑する夕方街を、初めて運転する車で何度も迷いながらやっとの思いで帰り着いた。この時ほど車の運転で緊張したのは後にも先にも無い。(I氏) 銀行での入金・引き出しに時間がかかりすぎる。 ある記念切手を売り出し中の広告を見たのでクアラルンプールの中央郵便局へ行き、販売窓口「今日は売れないので明日にでも来い」と言うので何故かと訪ねると「実は記念切手のスーパーバイザー(監督者)が今日は休みなので彼の机に鍵がかかっている出すことが出来ない」と言う返事を得た。(U氏) 小生の場合、毛髪の質が直毛で理髪してうまくまとめるのが難しいのだが、現地で特に言葉でどのようにやってもらいたいかに相手に伝えることに大変苦労した。上述との関連で髪に曲がり癖をつけるためにアイパーをかけてくれと頼んだところ終わってみたら全体にパーマをかけられ当分の間決まりの悪い思いをした。(K氏)
	<p>◎裏話</p> <ul style="list-style-type: none"> (トイレの話) 普段事務所では小さい方しか用はないが、ある時下り気味で大きい方に入った。便座にやたら靴の跡がある、踏み台にして天井裏でも工事したのだろうかと上を見るがその形跡はない。同じ階の別の場所に行くが同様、しかたなく持参したティッシュペーパーを便座に敷いて済ませた。後で分かったが殆どの利用者が座るのではなく、上に乗ってしゃがむ。この体制だと事後水洗するのにホースの水が余分なところにかからず、狙った部分に集中させることができ、都合がよいとの事である。幸か不幸かその後、もよおしたことは無いので試行していない。(I氏) マレイシアで日本語指導の専門家に聞いた話であるがアイウエオと五十音を言わせるとき、バビペボのところはバビ抜きでペボとしか言わない研修生がいるので授業が進めにくいとのこと、その理由はバビ(babi)はイスラム教徒忌避すべき豚という言葉だからである。(U氏)

項 目	内 容 及 び 留 意 点
☆派遣国のタブー	<ul style="list-style-type: none"> • イスラム教によるタブー（豚肉、アルコール類、ヌード写真など） • 人差し指の代わりに足を使って人やものを指すこと。 下記の事項は握手は別としてあまり厳しくないと思われる。これらをやっている現地の人をよく見かけるがタブーとされている。 • 人差し指で人を指差さない。 • 子どもの頭を撫でない。 • 左手で握手、ものを渡したりしない。 (I氏) • 宗教の批判（イスラム教、仏教、ヒンズー教、キリスト教、道教など多くの宗教が微妙なバランスを保ちながら共存している国である。） • 第三者のいるところで人を叱らない。 • 男性に対して女性から握手を求めない。 • 子どもの頭に手を乗せない。（頭には神が宿ると考える人が多い。） • スプーンや箸を使わずに素手で食物を食べるときは右手のみ使用し、トイレの後始末に水で洗うときは左手で行う。 • イスラム教徒の断食中に彼らの目前で食事をしない方がよい。 (U氏) • マレーシアにはマレー人、中国人、インド人等が住んでいて他民族国家を成しているが民族間の優劣を現地人に対して云々言うことは絶対さけるべきである。 (K氏)